

SuperStream Users Group主催 SuperStreamバージョンアップ説明会

スーパーストリーム株式会社

TOKYO 2013/8/26

OSAKA 2013/9/17



Agenda

第1部 会計シリーズ バージョンアップの内容ご説明

カスタマーサポート部 塩谷 武弘

- *SuperStream-CORE* (財務会計システム)
- *SuperStream-AP+* (支払管理システム)
- *SuperStream-AR+* (債権管理システム)
- *SuperStream-FA+* (固定資産・リース資産管理システム)
- *SuperStream-field* (分散入力システム)
- TOOLの内容ご説明

～ご休憩～

第2部 人事給与シリーズ バージョンアップの内容ご説明

カスタマーサポート部 板井 健太郎

- *SuperStream-HR+* (人事管理システム)
- *SuperStream-HR+* 退職金管理
- *SuperStream-PR+* (給与管理システム)
- *SuperStream-field/HR* (人事諸届・照会システム)
- 付録 平成25年 年末調整パッチ(予告)
- *SuperStream-NX* 人事給与

～質疑応答～

第1部 会計シリーズ ～バージョンアップの内容ご説明～

スーパーストリーム株式会社

カスタマーサポート部

塩谷 武弘





SuperStream-CORE

- 対応内容 -

1. 段階的増税対応(税処理コード変更)
2. 伝票明細消込日付設定
3. 会計部門階層別一覧表
4. 伝票検索照会(摘要検索条件)
5. 外貨の許容誤差チェックのオプション対応

【参考】*SuperStream-CORE*シリーズの許容誤差対応
付録. 変更DBについて

1. 段階的増税対応(税処理コード変更)

■ 機能追加背景

2012年8月、消費税増税を柱とする一体改革関連法が成立しました。
現在5%の消費税率は、2014年4月に8%、2015年10月には10%へとなる見通しです。

■ 機能内容

段階的増税に伴ない、税処理コードの増加が見込まれるため、税処理コードの「中央の桁」に0～9の数字だけでなくA～Zの英字を使用可能としました。

■ メリット・効果

これまで税処理コードは最大90種類までの設定でしたが、今回の対応で税処理コードの設定数を大幅に増やすことが可能となります。段階的増税で税処理コードが増加しても安心してご利用いただけます。

■ 対応プログラム

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ・消費税情報登録 / KM002600 | ・総勘定元帳照会 / KR000300 |
| ・勘定科目税区分登録 / KM002200 | ・相手先元帳照会 / KR007100 |
| ・バッチマスタ登録 / KM006700 | |

※他のプロダクトについても英数字の税処理コードを使用することが可能です。

1. 段階的増税対応(税処理コード変更)

【SuperStream における税処理コードの体系】

上1桁	中央の桁	下1桁
0:課税以外(非課税・対象外)	【これまで】 0～9の数字を任意に指定	1～4:課税売上
1:課税		5～9:課税仕入



【今後】
0～9の数字または、
A～Zの英字を任意に指定

■ 注意点

英字は大文字、小文字関係なく使用可能ですが、混在させて運用した場合、データ抽出や絞込時に正しく処理されないことがあるため、どちらか一方に統一してください。

1. 段階的増税対応(税処理コード変更)

【消費税情報登録 画面】

中央の桁に
英数字の使用が可能です

消費税情報登録

税処理
☐ 0: 非課税
☒ 1: 課税

コード **A1**

税処理名称 課税売上A

税率 5.00

端数 四捨五入

端数単位 円未満

税区分	コード	税処理名称	税率	端数処理	端数単位	科目コード
非課税	00	対金外	0.00	四捨五入	円未満	
非課税	01	非課税売上高	0.00	四捨五入	円未満	
非課税	05	非課税仕入	0.00	四捨五入	円未満	
非課税	21	免税売上高	0.00	四捨五入	円未満	
課税	11	課税売上高	5.00	四捨五入	円未満	31710
課税	15	課税仕入	5.00	四捨五入	円未満	17610
課税	16	課税仕入2	10.00	四捨五入	円未満	17610

確定 画面印刷 新規作成 修正選択 削除

総勘定元帳開示

過年度選択 過去後 基準会計期 10期

出力期間 2013/03/01 ~ 2013/03/31

組織/パターン 会計組織

部門 A1000 本社

科目 40101 売上高1

補助科目

配賦区分
☒ 配賦後
☐ 配賦前

条件
☐ 決算のみ

CSN出力

摘要1	摘要2	税コード	税額	補助科目コード	補助科目	部門コード
X 前月繰越 X X			0			
		1A1	10,000			A1100
		1A1	2,000			A1100
X 当月計 X X			0			

英数字コードが表示されます

伝票開示 画面印刷 絞込 絞込解除 閉じる 実行

SS101 SS101 CAPS NUM SCRL 2013/03/18 11:02:23 AM

2. 伝票明細消込日付設定

■ 機能追加背景

仕訳明細を対象とした消し込み機能がないため、振替処理等でどの明細を対象としたのかチェックすることが難しいケースがありました。

■ 機能内容

仕訳ラン予備項目を利用し仕訳明細に消込日付やメモを設定する機能を新たに追加しました。ただし、未消込の残高を管理することはできません。

■ メリット・効果

仕訳明細に消込日付や備忘メモを付与することができます。

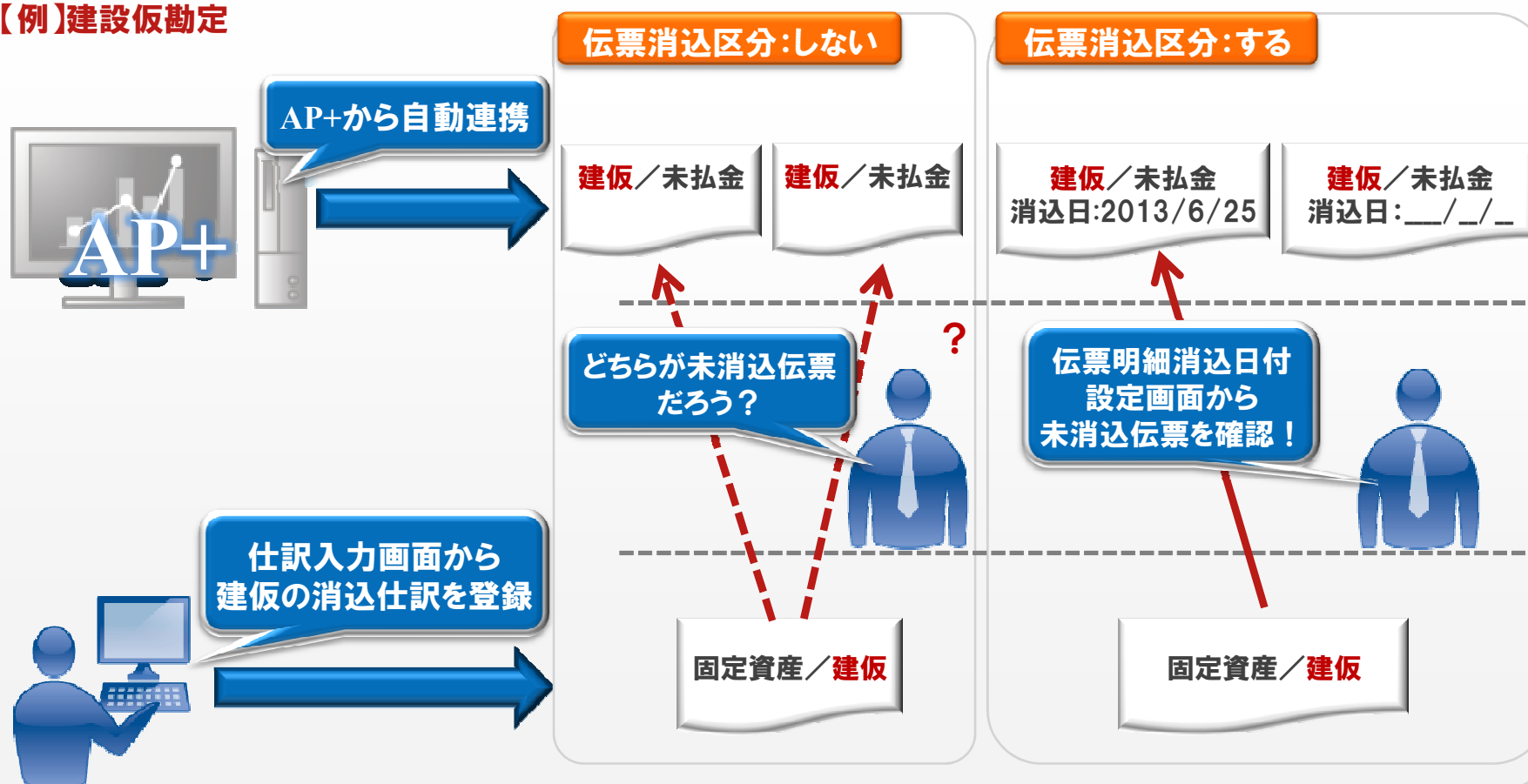
■ 対応プログラム

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ・コントロール情報登録/KM000700 | ・CORE初期値マスタ登録/CM002700 |
| ・伝票明細消込日付設定/KE003200 | ・CORE新会社セットアップ/KN000100 |
| ・マスタ連携/CB001300 | |

2. 伝票明細消込日付設定

建設仮勘定などの経過勘定について、仕訳伝票ごとにメモを付与することで、消込処理された仕訳伝票なのかを把握することができます。

【例】建設仮勘定



2. 伝票明細消込日付設定

【コントロール情報登録(他の設定)画面】

他の設定

四半期決算区分
☐ 使用しない ☒ 使用する

四半期決算反映区分
☐ 反映しない ☒ 反映する

自動洗替機能
☐ 使用しない ☒ 使用する(貸借反転) ☐ 使用する(マリス仕訳)

伝票即更新区分(一般、決算用)
☒ しない ☐ する

伝票即更新区分(外部用)
☒ しない ☐ する

伝票即更新区分(入出金用)
☒ しない ☐ する

元帳の相手科目表示区分(複合仕訳時)
☐ 行単位で相手科目表示 ☒ 「諸口」と表示 ☐ 諸口を「*」表示する

本店仕訳承認区分
☐ しない ☒ する 最終承認レベル

カーソル自動スキップ区分
☒ しない ☐ する

9ヶ月決算区分
☐ 使用しない ☒ 使用する

9ヶ月決算反映区分
☐ 反映しない ☒ 反映する

過年度過及区分
☐ しない ☒ する

伝票明細消込区分
☐ しない ☒ する 消込日セット項目 1

伝票明細消込メモ区分
☐ しない ☒ する 消込メモセット項目 5

仕訳データ更新 OK

- ・伝票明細消込区分
当機能を使用するか否かを選択します。
☐ 使用する場合:
消込日を予備項目(1~4)のどこに設定するか指定します。
- ・伝票明細消込メモ区分
伝票明細消込区分を「する」に設定した場合のみ選択できます。
☐ 使用する場合:
メモを予備項目(5~8)のどこに設定するか指定します。

■ 注意点

アドオンなどで予備項目をすべて使用している場合、当機能は利用できません。

2. 伝票明細消込日付設定

【CORE初期値マスタ登録 画面】

プログラムID	プログラム名称	設定	内容
CB001300	マスタ連携 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CB001310	連携仕訳データ作成 [他システム情報]	☒ そのまま	☐ CORE
CL003400	伝票発番グループ読替マスタ一覧表 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CM004110	伝票発番グループ読替マスタ登録 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CM004120	IFRSマスタ連携マスタ登録 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CM004130	仕訳データ連携開始設定マスタ登録 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CP003300	マスタ連携エラーリスト [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
KB000300	外部データ取込 [AP+外貨許容誤差]	☒ チェックする	☐ チェックしない
KB000300	外部データ取込 [AR+外貨許容誤差]	☒ チェックする	☐ チェックしない
KB000300	外部データ取込 [他システム外貨許容誤差]	☒ チェックする	☐ チェックしない
KE003300	伝票明細消込日付設定 [FROM日付初期値]	☒ ログイン日付	☐ 導入開始月初
KE003300	伝票明細消込日付設定 [基準日/TO日付初期値]	☒ ログイン日付	☐ 最終月次更新済末日
KE003300	伝票明細消込日付設定 [月次更新済みチェック]	☒ しない	☐ する
KE100010	仕訳入力(赤字マスタ)	☒ 貸借転	☐ マイナス金額
KP001300			
KP001300			
KP001400			

・FROM/TO日付初期値
仕訳明細を検索する際に、初期表示される日付範囲を指定します

・月次更新済みチェック
「する」を選択した場合、「伝票明細消込日付設定画面」の消込日付に月次更新済み月度の日付を指定できないように制限をかけられます

2. 伝票明細消込日付設定

【伝票明細消込日付設定 画面】

当画面で消込日付を条件に検索し、消込日付を設定できます。

伝票明細消込日付設定

ファイル(F) 編集(E) メニュー(M) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

仕訳種別
☐ 全て ☒ 通常仕訳 ☐ 過年度過及仕訳

オペレータ

入力端末

入力日付 ~ ☒ 全て

伝票日付 2012/04/01 ~ 2013/03/31

更新日付 ~

伝票番号 ~

修正区分
☒ 全て ☐ 新規伝票のみ ☐ 修正伝票のみ

システム区分

伝票グループ

部 門 00000 全社

科 目

補助科目 ☐ 未入力検索

現預金管理 ☐ 未入力検索

機能2 ☐ 未入力検索

機能3 ☐ 未入力検索

プロジェクト ☐ 未入力検索

相手先
☒ 全て ☐ 得意先 ☐ 仕入先 ☐ 社員

相手先 ☐ 未入力検索

摘要 ☐ 空白削除

☒ あいまい検索 ☐ 完全一致検索 ☐ 未入力検索

金額 ~

相手科目
☒ 全て ☐ 個別指定 ☐ 諸 ☐

相手科目

外 貨 ☐ 未入力検索

税処理コード

元伝票番号 ~ ☐ 未入力検索

元システム区分 ☐ 未入力検索

元伝票グループ ☐ 未入力検索

消込検索
☒ 未消込 0000/00/00 ☒ 消込済 0000/00/00

予備メモ 予備 ☐ 未入力検索

画面印刷 参照 閉じる 検索

KE001 KE001 CAPS NUM SCRL 2013/03/18 7:36:25 PM

[CORE初期値マスタ]で選択した
日付範囲が初期表示されます

未消込、消込済のいずれかを必ず
指定します

○未消込にチェックした場合
未消込のデータが出力されます。
ただし、指定した基準日以降で消
込済のデータも検索対象となります

○消込済にチェックした場合
入力された日付時点で消込済の
データが検索対象となります

メモを検索条件に指定することが可能。
※メモ欄が未入力のデータを検索する
こともできます。

2. 伝票明細消込日付設定

【伝票明細消込日付設定 画面】

伝票明細消込日付設定 (一覧表示及び消込画面)

ファイル(F) 編集(E) メニュー(M) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

消込日付	メモ	伝票日付	グループ	伝票番号	行	部門コード	部門名	科目コード	科目名	補助科目コード	補助科目名
2012/04/08	予備⑤-1	2012/04/20	1A	00000003	1	1A1211	情報本社営業1	10100	現金		
2012/04/10	予備⑤-2	2012/04/20	1A	00000003	1	1A1100	企画本社事業部	15200	商品		
	予備⑤-3	2012/05/05	3A	00000001	1	1A1302	本社経理課	26600	本支店勘定	B1000	SSC大
	予備⑤-4	2012/05/31	04	00000001	1	1A1211	情報本社営業1	64100	広告宣伝費		
	予備⑤-5	2012/05/31	04	00000001	2	1A1100	企画本社事業部	33900	社債		
	予備⑤-6	2012/06/05	1A	00000010	1	1A1100	企画本社事業部	10110	現金(ドル)		
	予備⑤-7	2012/06/30	2A	00000001	1	1A1100	企画本社事業部	10100	現金		
	予備⑤-8	2012/09/30	2A	00000003	1	1A1100	企画本社事業部	10100	現金		

消込日付(YYYY/MM/DD)とメモ(最大20バイト)を設定します

伝票照会、CSV出力も可能です。CSVファイル名は、固定で出力されます

借方・貸方の明細合計と消込済の明細合計が表示されます

	借方	貸方	差額
全明細合計	589,550	10,000	589,550
消込済明細合計	10,000	10,000	0

伝票照会 CSV出力 画面印刷

項目固定 項目解除

閉じる 実行

KE001 KE001 CAPS NUM SCRL 2013/03/18 7:37:10 PM

■ 注意点

- ・メモ欄は [コントロール情報登録] の伝票明細消込メモ区分を「する」に設定した場合にのみ表示されます。
- ・消込日付を入力した仕訳伝票も、削除や修正の対象となります。※制限は行っておりません。
また、消込日付を入力した仕訳伝票を複写機能で複写した場合、消込日付も複写されます。

3. 会計部門階層別一覧表

■ 機能追加背景

会計組織の一覧表はあるが、組織階層ごとに部門をツリー表示する一覧表がなかった。

■ 機能内容

会計部門、管理会計部門に登録されている組織パターン別に、組織階層ごとにツリー表示した部門一覧表を出力することが可能になります。

■ メリット・効果

組織階層ごとに出力されるので分かり易く、そして組織の構造を容易に確認することができます。

■ 対応プログラム

会計部門階層別一覧表/KL002700

■ 注意点

- ・組織の階層は最大15階層まで出力可能です。
これを超える場合、階層レベル範囲を分けて出力してください。

3. 会計部門階層別一覧表

【会計部門階層別一覧表 画面】

基準日時点で
有効な部門を出力します

階層レベルの範囲指定
が可能です

会計部門階層別一覧表 25/04/16 09:00:06
1 画

日次	月次	年次	部門	階層	名称	コード	属性
25000	04	25	001	001	総務部	001	001
25000	04	25	001	002	総務部	002	001
25000	04	25	001	003	総務部	003	001
25000	04	25	001	004	総務部	004	001
25000	04	25	001	005	総務部	005	001
25000	04	25	001	006	総務部	006	001
25000	04	25	001	007	総務部	007	001
25000	04	25	001	008	総務部	008	001
25000	04	25	001	009	総務部	009	001
25000	04	25	001	010	総務部	010	001
25000	04	25	001	011	総務部	011	001
25000	04	25	001	012	総務部	012	001
25000	04	25	001	013	総務部	013	001
25000	04	25	001	014	総務部	014	001
25000	04	25	001	015	総務部	015	001
25000	04	25	001	016	総務部	016	001
25000	04	25	001	017	総務部	017	001
25000	04	25	001	018	総務部	018	001
25000	04	25	001	019	総務部	019	001
25000	04	25	001	020	総務部	020	001
25000	04	25	001	021	総務部	021	001
25000	04	25	001	022	総務部	022	001
25000	04	25	001	023	総務部	023	001
25000	04	25	001	024	総務部	024	001
25000	04	25	001	025	総務部	025	001
25000	04	25	001	026	総務部	026	001
25000	04	25	001	027	総務部	027	001
25000	04	25	001	028	総務部	028	001
25000	04	25	001	029	総務部	029	001
25000	04	25	001	030	総務部	030	001
25000	04	25	001	031	総務部	031	001
25000	04	25	001	032	総務部	032	001
25000	04	25	001	033	総務部	033	001
25000	04	25	001	034	総務部	034	001
25000	04	25	001	035	総務部	035	001
25000	04	25	001	036	総務部	036	001
25000	04	25	001	037	総務部	037	001
25000	04	25	001	038	総務部	038	001
25000	04	25	001	039	総務部	039	001
25000	04	25	001	040	総務部	040	001
25000	04	25	001	041	総務部	041	001
25000	04	25	001	042	総務部	042	001
25000	04	25	001	043	総務部	043	001
25000	04	25	001	044	総務部	044	001
25000	04	25	001	045	総務部	045	001
25000	04	25	001	046	総務部	046	001
25000	04	25	001	047	総務部	047	001
25000	04	25	001	048	総務部	048	001
25000	04	25	001	049	総務部	049	001
25000	04	25	001	050	総務部	050	001
25000	04	25	001	051	総務部	051	001
25000	04	25	001	052	総務部	052	001
25000	04	25	001	053	総務部	053	001
25000	04	25	001	054	総務部	054	001
25000	04	25	001	055	総務部	055	001
25000	04	25	001	056	総務部	056	001
25000	04	25	001	057	総務部	057	001
25000	04	25	001	058	総務部	058	001
25000	04	25	001	059	総務部	059	001
25000	04	25	001	060	総務部	060	001
25000	04	25	001	061	総務部	061	001
25000	04	25	001	062	総務部	062	001
25000	04	25	001	063	総務部	063	001
25000	04	25	001	064	総務部	064	001
25000	04	25	001	065	総務部	065	001
25000	04	25	001	066	総務部	066	001
25000	04	25	001	067	総務部	067	001
25000	04	25	001	068	総務部	068	001
25000	04	25	001	069	総務部	069	001
25000	04	25	001	070	総務部	070	001
25000	04	25	001	071	総務部	071	001
25000	04	25	001	072	総務部	072	001
25000	04	25	001	073	総務部	073	001
25000	04	25	001	074	総務部	074	001
25000	04	25	001	075	総務部	075	001
25000	04	25	001	076	総務部	076	001
25000	04	25	001	077	総務部	077	001
25000	04	25	001	078	総務部	078	001
25000	04	25	001	079	総務部	079	001
25000	04	25	001	080	総務部	080	001
25000	04	25	001	081	総務部	081	001
25000	04	25	001	082	総務部	082	001
25000	04	25	001	083	総務部	083	001
25000	04	25	001	084	総務部	084	001
25000	04	25	001	085	総務部	085	001
25000	04	25	001	086	総務部	086	001
25000	04	25	001	087	総務部	087	001
25000	04	25	001	088	総務部	088	001
25000	04	25	001	089	総務部	089	001
25000	04	25	001	090	総務部	090	001
25000	04	25	001	091	総務部	091	001
25000	04	25	001	092	総務部	092	001
25000	04	25	001	093	総務部	093	001
25000	04	25	001	094	総務部	094	001
25000	04	25	001	095	総務部	095	001
25000	04	25	001	096	総務部	096	001
25000	04	25	001	097	総務部	097	001
25000	04	25	001	098	総務部	098	001
25000	04	25	001	099	総務部	099	001
25000	04	25	001	100	総務部	100	001

4. 伝票検索照会(摘要検索条件)

■ 機能追加背景

現行機能では、摘要の検索は「あいまい検索」しかできませんでした。
また、「あいまい検索」を行う際、空白文字などが間に含まれていると、空白文字も一致していないと検索対象になりませんでした。

■ 機能内容

- ・摘要の検索を「あいまい検索」と「完全一致検索」の2種類にしました。
- ・空白削除のチェックボックスを追加し、チェックした場合は検索項目の空白および摘要データの空白を削除して検索することが可能となります。
(摘要欄は今まで通り1つとして、摘要1、摘要2を合わせて検索)

■ メリット・効果

さまざまな条件での仕訳検索が可能になります。

■ 対応プログラム

- ・伝票検索照会/KR000200

※CORE V3も同様です。

4. 伝票検索照会(摘要検索条件)

【伝票検索照会 画面】

伝票検索照会

ファイル(F) 編集(E) メニュー(M) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

仕訳種別
☒ 全て ☐ 通常仕訳 ☐ 過年度遡及仕訳

オペレータ USR2 USR2

入力端末 3939

入力日付 ~

伝票日付 2013/02/14 ~ 2013/02/14 ☒ 全て

更新日付 ~ ☒ 全て

伝票番号 ~

修正区分
☒ 全て ☐ 新規伝票のみ ☐ 修正伝票のみ

システム区分

伝票グループ

伝票区分 ☒ 一般伝票 ☒ 決算伝票

複写区分 ☐ そのまま ☐ 貸借反転 ☐ マイナス

部門 A1000 本社

科目

補助科目 ☐ 未入力検索

現預金管理 ☐ 未入力検索

貸借区分
☒ 全て ☐ 借方のみ ☐ 貸方のみ

相手科目
☒ 全て ☐ 個別指定 ☐ 諸

相手科目

相手先
☒ 全て ☐ 得意先 ☐ 仕入先 ☐ 社員

相手先

検索
☐ 空白削除
☒ あいまい検索 ☐ 完全一致検索 ☐ 未入力検索

金額 ~

画面印刷 参照 閉じる 実行

GL102 GL102 CAPS NUM SCRL 2013/02/14 5:27:27 PM

5. 外貨の許容誤差チェックのオプション対応

■ 機能追加背景

外貨の許容誤差を0%など非常に低く設定し運用している場合、[外部データ取込]で外貨取引が発生しているデータに対して許容誤差チェックが行われ、エラーになることがありました。また、外部データはチェック済みのデータとして、そのまま取り込ませたいといった要望もありました。

■ 機能内容

[CORE初期値マスタ登録]画面にAP+とAR+からI/Fされる外部データについて、許容誤差のチェックを「する・しない」を選択できるオプションを追加しました。また、その他の外部システムからI/Fされるデータについても同様に、許容誤差のチェックを「する・しない」を選択できるようになります。

■ メリット・効果

外貨許容誤差チェックを、外部I/Fの外貨取引についてはチェックの適用を除外した運用が可能となります。

■ 対応プログラム

・外部データ取込/ KB000300

・CORE初期値マスタ登録/ CM002700

5. 外貨の許容誤差チェックのオプション対応

【CORE初期値マスタ登録 画面】

プログラムID	プログラム名称	設定	内容
CB001300	マスタ連携 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CB001310	連携仕訳データ作成 [他システム情報]	☒ そのまま	☐ CORE
CL003400	伝票発番グループ読替マスタ一覧表 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CM004110	伝票発番グループ読替マスタ登録 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CM004120	IFRSマスタ連携マスタ登録 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CM004130	仕訳データ連携開始設定マスタ登録 [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
CP003300	マスタ連携エラーリスト [(連携元)会社]	☒ 固定	☐ 変更可能
KB000300	外部データ取込 [AP+外貨許容誤差]	☒ チェックする	☒ チェックしない
KB000300	外部データ取込 [AR+外貨許容誤差]	☒ チェックする	☐ チェックしない
KB000300	外部データ取込 [他システム外貨許容誤差]	☒ チェックする	☐ チェックしない
KE003300	伝票明細読み込日付設定 [FROM日付初期値]	☐ ログイン日付	☒ 導入開始月初
KE003300	伝票明細読み込日付設定 [TO日付初期値]	☒ ログイン日付	☐ 最終月次更新済末日

・[AP+外貨許容誤差] AP+からの I/F専用の区分です
 ・[AR+外貨許容誤差] AR+からの I/F専用の区分です
 ・[他システム外貨許容誤差] AP+とAR+以外の外部システム用の区分です
 ※任意でシステムを限定することはできません。

【参考】SuperStream-COREシリーズの許容誤差対応

SuperStream-AP+・AR+の許容誤差チェックの仕様変更

■ 機能内容

外貨額が設定されている伝票を取込む際の「許容誤差」のチェック仕様を変更

- ・現行では「税抜」の場合でも、税込金額との許容誤差チェックを行っていたが、
税入力区分が「税込」の場合には、税込金額と許容誤差をチェック、
税入力区分が「税抜」の場合には、税抜金額と許容誤差をチェックするように変更しました。

※青字の個所が仕様変更した点になります



付録.変更DB一覧

■ 変更DB一覧

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
新規テーブル	WKE003300	伝票明細消込日付設定ワークテーブル		
	GLTXLMST	消費税申告項目集計マスタ(科目グループ)		
	GLZZ2CTLWRK	IFRS排他制御ワーク		
	GLZZ1DTLRSV	IFRSマスタ連携ログ(CMRSVMST)		
	GLZZ1DTLCTG	IFRSマスタ連携ログ(GLCTGMST)		
	GLZZ1DTLCTL	IFRSマスタ連携ログ(GLCTLMST)		
	GLZZ1DTLTEK	IFRSマスタ連携ログ(GLTEKMST)		
	GLZZ1DTLPRM	IFRSマスタ連携ログ(GLPRMMST)		
	GLZZ1DTLPRB	IFRSマスタ連携ログ(GLPRBMST)		
	GLZZ1DTLREP	IFRSマスタ連携ログ(GLREPMST)		
	GLZZ1DTLRPN	IFRSマスタ連携ログ(GLRPNMST)		
カラム追加	CMSYSMST	会計管理マスタ	SYS_KESI_KBN	伝票明細消込区分
			SYS_KESI_SETDATE	消込日セット項目
			SYS_KESI_MEMO_KBN	伝票明細消込メモ区分
			SYS_KESI_SETMEMO	消込メモセット項目

■ 変更DB一覧

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	GLSWKVEW	伝票照会用ビュー	KARI_YOBI_CHAR1	借方予備CHAR1
			KARI_YOBI_CHAR2	借方予備CHAR2
			KARI_YOBI_CHAR3	借方予備CHAR3
			KARI_YOBI_CHAR4	借方予備CHAR4
			KARI_YOBI_CHAR5	借方予備CHAR5
			KARI_YOBI_CHAR6	借方予備CHAR6
			KARI_YOBI_CHAR7	借方予備CHAR7
			ARI_YOBI_CHAR8	借方予備CHAR8
			KASI_YOBI_CHAR1	貸方予備CHAR1
			KASI_YOBI_CHAR2	貸方予備CHAR2
			KASI_YOBI_CHAR3	貸方予備CHAR3
			KASI_YOBI_CHAR4	貸方予備CHAR4
			KASI_YOBI_CHAR5	貸方予備CHAR5
			KASI_YOBI_CHAR6	貸方予備CHAR6
			KASI_YOBI_CHAR7	貸方予備CHAR7
			KASI_YOBI_CHAR8	貸方予備CHAR8
	GLZZ1DTLSYS	IFRSマスタ連携ログ (CMSYSMST)	SYS_KESI_KBN	伝票明細消込区分
			SYS_KESI_SETDATE	消込日セット項目
			SYS_KESI_MEMO_KBN	伝票明細消込メモ区分
			SYS_KESI_SETMEMO	消込メモセット項目
テーブル削除	GLZZ1TBL	IFRSマスタ連携ログ(テーブル)	TBL_DATA_CNT_ERROR	データ件数(エラー)
			TBL_DATA_CNT_REPLACE	データ件数(置換)
	GLZR2WRK	その他システム用更新エラーログデータ(削除)		
	GLZWEWRK	その他システム用エラー仕訳ワーク(削除)		
	GLTX9TRN	消費税申告項目集計伝票トラン		
	GLZZ1DTLCAL	IFRSマスタ連携ログ(CMCALMST)		



SuperStream-AP+

- 対応内容 -

1. 外部取込IF処理のエラーチェック仕様変更

付録. 変更DBについて

1. 外部取込IF処理のエラーチェック仕様変更

■ 機能内容

[外部取込IF処理] のエラーチェックの仕様を変更しました。

① 支払先が「社員」で、預り金が設定された伝票のエラーチェック

支払先区分が「2:社員」で、かつ、預り金区分が「1:預り金あり」に設定されている場合には取込時にエラーとするように修正。

② 振込元口座が「解約済」の場合のエラーチェック

外部システム用伝票支払明細ワーク (APGDSWRK) の振込元口座管理コードが未設定のときは振込元口座を自動設定しているが、その補完された口座が“解約済”の場合、エラーとするように修正。

■ 対応プログラム

・外部取込IF処理/FB000700



■ 変更DB一覧

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	APDPHMST	伝票見出しパターンマスタ	DPH_AZU_ZEI_CODE	相殺／預り金税処理コード
	APZDSWRK	外部システム用伝票支払明細ワーク (削除)	ZDS_DS_RIYO_NO	電債利用者番号
カラム定義修正	WPP100100	債務計上チェックリスト	WRK_ZEI_NAME	税処理名



SuperStream-AR+

- 対応内容 -

- 1.入金予定ゼロ登録 消費税入力対応
- 2.差額明細科目 相手先初期表示機能改善
- 3.振替先科目 相手先初期表示機能改善
- 4.入金入力 債権伝票表示機能改善

付録.変更DBについて

1.入金予定ゼロ登録 消費税入力対応

■ 機能追加背景

従来の入金予定ゼロ登録では、[債権残高振替情報]の消費税額を自動計算していました。税区分、消費税額を入力したいとの要望をいただき、本機能を追加いたしました。

■ 機能内容

[債権残高振替情報]に税区分及び消費税額を入力可能としました。

■ メリット・効果

税区分および消費税額を入力したい場合、画面から設定することが可能です。

■ 対応プログラム

・入金予定ゼロ登録/RE004090

1.入金予定ゼロ登録 消費税入力対応

【入金予定ゼロ登録】

入金予定ゼロ登録

ファイル(F) 編集(E) メニュー(M) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

モード 通常・新規

元伝日付 2013/05/28 伝票区分 66 入金予定ゼロ 伝票番号

伝票日付 2013/05/28 伝票グループ 10 伝票グループ10 赤伝番号

抽出情報

集金先 TOK000000000000000000000000 尾畑商事 外貨

債権残高振替情報 ☒ 仕訳を作成する (選択をはずしたときは債権伝票の仕訳作成区分に準ずる)

科目 80501 雑収入

補助科目

部門 A1100 企画本社事業部

相手先 仕入先 SIR000000000000000000000000 仕入先01

摘要

税区分 課税売上高 外税 内税

税抜額 4,761,905

税額 238,095

税込額 5,000,000 外貨額 0.000

税区分、税額を入力可能としました

エラー情報 画面印刷 参照 伝票取消 閉じる 実行

KUMA1 SSCOREAPAR CAPS NUM SCRL 2013/05/28 4:58:15 PM

2. 差額明細科目 相手先初期表示機能改善

■ 機能追加背景

従来、差額明細科目入力時、相手先属性に関わらず相手先 [得意先] を初期表示していました。また、勘定科目に設定した相手先属性を参照して欲しいとの要望があり、本機能を追加しました。

■ 機能内容

差額明細科目の相手先の初期表示を、下記より選択できるようにしました。

- ① 従来通り、勘定科目の相手先属性値に関係なく [得意先] で表示する。
- ② 勘定科目の相手先属性値で表示する。

■ メリット・効果

勘定科目によって相手先属性の表示が変わるため、入力しやすくなります。

■ 対応プログラム

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| • AR+初期値マスタ登録/RM002100 | • 前受金消込入力 (ユーザ消込任意キー) /RE008250 |
| • 手動消込入力/RE008040 | • 前受金消込入力 (法人グループ単位) /RE008270 |
| • 手動消込入力 (ユーザ消込任意キー) /RE008150 | • 入金予定ゼロ登録/RE004090 |
| • 手動消込入力 (債権伝票番号検索) /RE008180 | • 入金入力/RE006010 |
| • 手動消込入力 (法人グループ単位) /RE008260 | • 入金入力 (ユーザ消込任意キー) /RE006140 |
| • 前受金消込入力/RE008050 | • 入金入力予定紐付/RE00601a |

【AR+初期値マスタ登録】

差額明細科目の相手先の初期表示を
従来通りの「得意先」とするか、
「科目マスタの取引先区分」とするか設定します

2. 差額明細科目 相手先初期表示機能改善

【入金入力(差額入力) 画面】

入金入力(差額入力)

☐ 前受金
 ☐ 仮受金
 ☒ その他

科目 80500 雑収入
 補助科目
 部門
 相手先 仕入先 10000 木綱商事

入力情報
 入金額 0 債権額 0
 差額(借) 0 差額(貸) 0
 差額 0

摘要
 税区分 課税売上高 ☐ 外税 ☒ 内税
 税抜差額 0
 税差額 0
 税込差額 0 外貨差額 0.000

☒ 借方 ☐ 貸方

明細追加
 明細修正
 明細削除
 明細取消

登録
 検索

前仮区分	科目	補助科目	部門	相手先	相手先略称	税コード	税区分	貸借	税抜額
------	----	------	----	-----	-------	------	-----	----	-----

画面印刷 参照 明細追加 明細修正 明細削除 明細取消 取消 閉じる 実行

CAPS NUM SCRL 2013/06/05 2:19:53 PM

AR+初期値マスタの設定により
相手先の初期表示が変わります。

3. 振替先科目 相手先初期表示機能改善

■ 機能追加背景

従来、振替先科目入力時、相手先属性に関わらず相手先[得意先]を初期表示していました。
また、勘定科目に設定した相手先属性を参照して欲しいとの要望があり、本機能を追加しました。

■ 機能内容

振替先科目の相手先の初期表示を、下記より選択できるようにしました。

- ① 従来通り、勘定科目の相手先属性値に関係なく[得意先]で表示する。
- ② 勘定科目の相手先属性値で表示する。

■ メリット・効果

勘定科目によって相手先属性の表示が変わるため、入力しやすくなります。

■ 対応プログラム

- ・AR+初期値マスタ登録/RM002100
- ・入金振替入力/RE006040
- ・入金振替入力(その他勘定振替)/RE007200
- ・入金振替入力(振替元先画面分割)/RE007220

3. 振替先科目 相手先初期表示機能改善

【AR+初期値マスタ登録】

[illegible]

振替先科目の相手先の初期表示を
従来通りの「得意先」とするか、
「科目マスタの取引先区分」とするかを設定します。

入金報告入力(報告先設定)

入金明細

伝票番号	金額	伝票日付	伝票番号	行番	科目	借財科目	部門	承認
トキ・カ	100000000	2008/05/08	00000001	1	現金		本社総務部	

入金先

入金明細

入金元	入金元	入金元	入金元	入金元	入金元	入金元	入金元	入金元	入金元
0000	0000	0000	0000	0000	0000	0000	0000	0000	0000

AR+初期値マスタの設定により
相手先の初期表示が変わります

4. 入金入力 債権伝票表示機能改善

■ 機能追加背景

従来、入力された伝票日付に関わらず、入力時点で存在する債権計上傳票を表示していました。また、入力伝票日付より先日付の債権計上傳票を表示したくないとの要望があり、本機能を追加しました。

■ 機能内容

AR+初期値マスタの設定により、債権計上傳票の表示内容を制御できるようにしました。

- ① 従来通り、入力伝票日付より先日付の債権計上傳票を表示する。
- ② 入力伝票日付より先日付の債権計上傳票は表示しない。

■ メリット・効果

伝票日付より先日付の債務計上傳票を誤って指定してしまうことがなくなります。

■ 対応プログラム

- ・AR+初期値マスタ登録/RM002100
- ・入金入力/RE006010
- ・入金入力(ユーザ消込任意キー)/RE006140
- ・入金入力予定紐付/RE00601a

4. 入金入力 債権伝票表示機能改善

【AR+初期値マスタ登録】

AR+初期値マスタ登録

プログラムID: RE00010

プログラム名称: 入金入力

表示: ☐ (表示する) ☐ (表示しない)

プログラムID	プログラム名称	表示
RE00010	入金入力	☐
RE00011	入金入力	☐
RE00012	入金入力	☐
RE00013	入金入力	☐
RE00014	入金入力	☐
RE00015	入金入力	☐
RE00016	入金入力	☐
RE00017	入金入力	☐
RE00018	入金入力	☐
RE00019	入金入力	☐
RE00020	入金入力	☐
RE00021	入金入力	☐
RE00022	入金入力	☐
RE00023	入金入力	☐
RE00024	入金入力	☐
RE00025	入金入力	☐
RE00026	入金入力	☐
RE00027	入金入力	☐
RE00028	入金入力	☐
RE00029	入金入力	☐
RE00030	入金入力	☐
RE00031	入金入力	☐
RE00032	入金入力	☐
RE00033	入金入力	☐
RE00034	入金入力	☐
RE00035	入金入力	☐
RE00036	入金入力	☐
RE00037	入金入力	☐
RE00038	入金入力	☐
RE00039	入金入力	☐
RE00040	入金入力	☐
RE00041	入金入力	☐
RE00042	入金入力	☐
RE00043	入金入力	☐
RE00044	入金入力	☐
RE00045	入金入力	☐
RE00046	入金入力	☐
RE00047	入金入力	☐
RE00048	入金入力	☐
RE00049	入金入力	☐
RE00050	入金入力	☐
RE00051	入金入力	☐
RE00052	入金入力	☐
RE00053	入金入力	☐
RE00054	入金入力	☐
RE00055	入金入力	☐
RE00056	入金入力	☐
RE00057	入金入力	☐
RE00058	入金入力	☐
RE00059	入金入力	☐
RE00060	入金入力	☐
RE00061	入金入力	☐
RE00062	入金入力	☐
RE00063	入金入力	☐
RE00064	入金入力	☐
RE00065	入金入力	☐
RE00066	入金入力	☐
RE00067	入金入力	☐
RE00068	入金入力	☐
RE00069	入金入力	☐
RE00070	入金入力	☐
RE00071	入金入力	☐
RE00072	入金入力	☐
RE00073	入金入力	☐
RE00074	入金入力	☐
RE00075	入金入力	☐
RE00076	入金入力	☐
RE00077	入金入力	☐
RE00078	入金入力	☐
RE00079	入金入力	☐
RE00080	入金入力	☐
RE00081	入金入力	☐
RE00082	入金入力	☐
RE00083	入金入力	☐
RE00084	入金入力	☐
RE00085	入金入力	☐
RE00086	入金入力	☐
RE00087	入金入力	☐
RE00088	入金入力	☐
RE00089	入金入力	☐
RE00090	入金入力	☐
RE00091	入金入力	☐
RE00092	入金入力	☐
RE00093	入金入力	☐
RE00094	入金入力	☐
RE00095	入金入力	☐
RE00096	入金入力	☐
RE00097	入金入力	☐
RE00098	入金入力	☐
RE00099	入金入力	☐
RE00100	入金入力	☐

入力伝票日付より先日付で計上された債権伝票を従来通り「表示する」とするか、「表示しない」とするかを設定します。

【入金入力（入金予定選択）画面】

■ 変更DB一覧

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	ARTX1TRN	AR+請求書消費税計算トラン1	TX1_PER	税率
	ARTX2TRN	AR+請求書消費税計算トラン2	TX2_PER	税率
	ARTX3TRN	AR+請求書消費税計算トラン3	TX3_PER	税率
	ARTX4TRN	AR+請求書消費税計算トラン4	TX4_PER	税率
	ART62TRN	AR+請求書消費税計算退避トラン1	T62_PER	税率
	ART63TRN	AR+請求書消費税計算退避トラン2	T63_PER	税率
	ART64TRN	AR+請求書消費税計算退避トラン3	T64_PER	税率
	ART65TRN	AR+請求書消費税計算退避トラン4	T65_PER	税率
	ARTX1SMEWRK	AR+請求書消費税計算ワーク1 (締次更新)	TW1_PER	税率
	ARTX2SMEWRK	AR+請求書消費税計算ワーク2 (締次更新)	TW2_PER	税率
	ARTX3SMEWRK	AR+請求書消費税計算ワーク3 (締次更新)	TW3_PER	税率
	ARTX4SMEWRK	AR+請求書消費税計算ワーク4 (締次更新)	TW4_PER	税率
	ARTX1TRNSPT	AR+請求書消費税計算トラン1 (スポット)	TX1_PER	税率
	ARTX2TRNSPT	AR+請求書消費税計算トラン2 (スポット)	TX2_PER	税率
	ARTX3TRNSPT	AR+請求書消費税計算トラン3 (スポット)	TX3_PER	税率
	ARTX4TRNSPT	AR+請求書消費税計算トラン4 (スポット)	TX4_PER	税率
	ARTX1WRK	AR+請求書消費税計算ワーク1	TW1_PER	税率
	ARTX2WRK	AR+請求書消費税計算ワーク2	TW2_PER	税率
	ARTX3WRK	AR+請求書消費税計算ワーク3	TW3_PER	税率
	ARTX4WRK	AR+請求書消費税計算ワーク4	TW4_PER	税率
	ARSTFTRN	予定ゼロ振替トラン	STF_NEW_STL_NUKI	今回ゼロ税抜額
			STF_NEW_STL_ZEI	今回ゼロ税額
	ART50TRN	予定ゼロ振替退避トラン	T50_NEW_STL_NUKI	今回ゼロ税抜額
			T50_NEW_STL_ZEI	今回ゼロ税額
	ARLOGSW2	伝票更新ログ (仕訳伝票)	LOG_GYO_NO	行番号
	ARTIHSW2	伝票更新ログ退避 (仕訳伝票)	LOG_GYO_NO	行番号



SuperStream-FA+

- 対応内容 -

1. IFRS複数帳簿対応
2. 少額資産の外部データ取込対応
3. 外部データ取込のクリア処理対応
4. 外部データ取込の取得価額省略対応
5. IFRS非継続事業対応
6. 除去債務見積変更時の算出方法変更
7. 外部データ取込のエラーチェック仕様変更
8. その他新規追加・改善機能

付録. 変更DBについて

■ 機能追加背景

IFRS任意適用を行う場合、日本基準とは別に、IFRSに基づいた台帳管理が必要になります。

■ 機能内容

- ① 日本基準会社の各種マスタをIFRS会社に連携できるようにしました。
- ② 日本基準会社の異動データをIFRS会社に連携できるようにしました。
- ③ IFRS会社に異動データを連携した際、更新前に連携データを修正できます。

■ メリット・効果

IFRSに準拠した償却計算を行って、COREに仕訳伝票を計上し、IFRSによる決算開示を行うことができます。

■ 対応プログラム

- ・FA+新会社セットアップ
- ・資産データの削除
- ・月次更新
- ・マスタ連携(新規画面)
- ・固定資産画面照会
- ・償却資産税申告書
- ・FA+初期値マスタ登録(新規画面)
- ・リース契約一括登録
- ・スーパーインターフェース

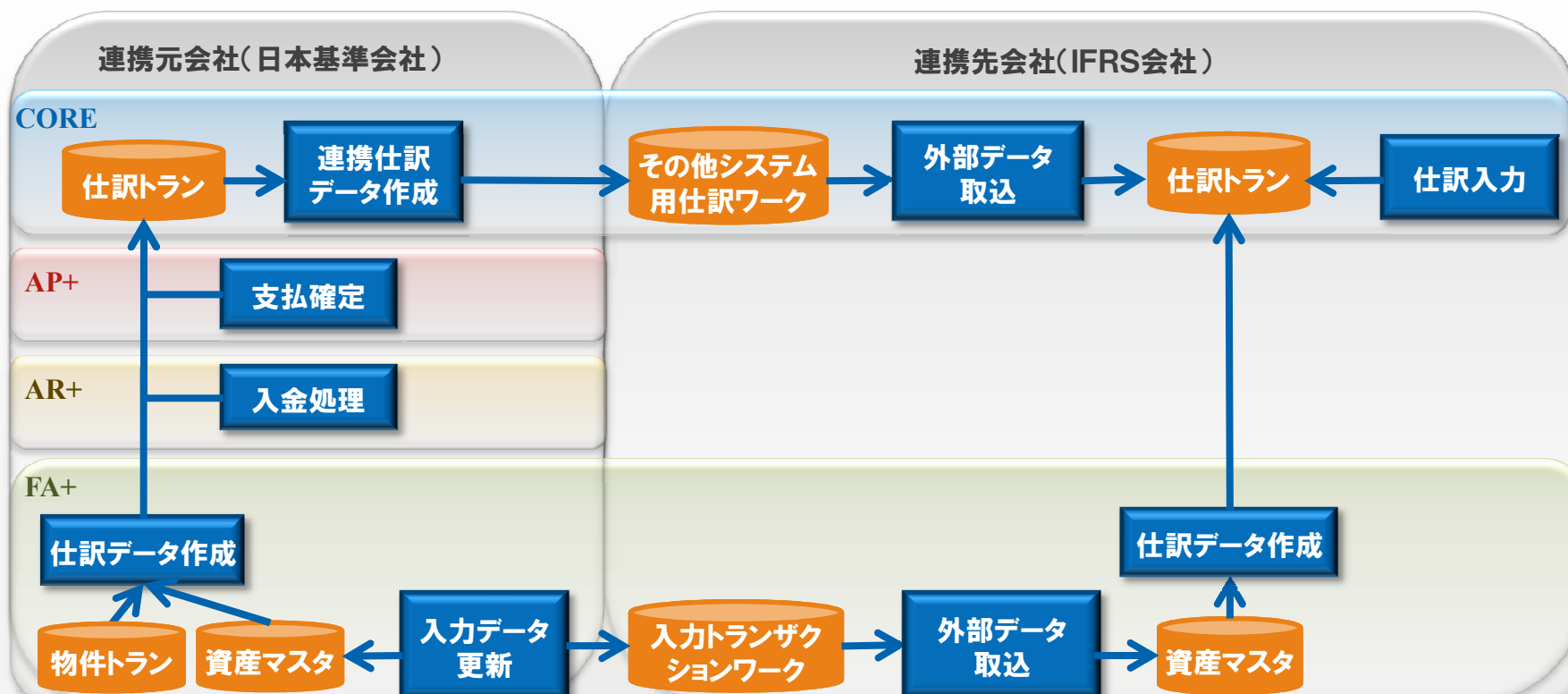
- ・固定資産入力処理
- ・外部データ取込
- ・年次更新
- ・データ移行(新規画面)
- ・固定資産レポート
- ・別表16
- ・リース資産入力
- ・リース資産画面照会
- ・外部取込用ワークデータ削除

- ・入力データ更新
- ・外部データ作成
- ・連携データ再作成処理(新規画面)
- ・予測処理
- ・連携データチェックリスト(新規画面)
- ・会社情報マスタ設定
- ・個別リース契約削除
- ・リース資産帳票処理

※プログラムNo.はリリースノートをご参照ください。

■ COREシリーズ複数帳簿 運用フロー図

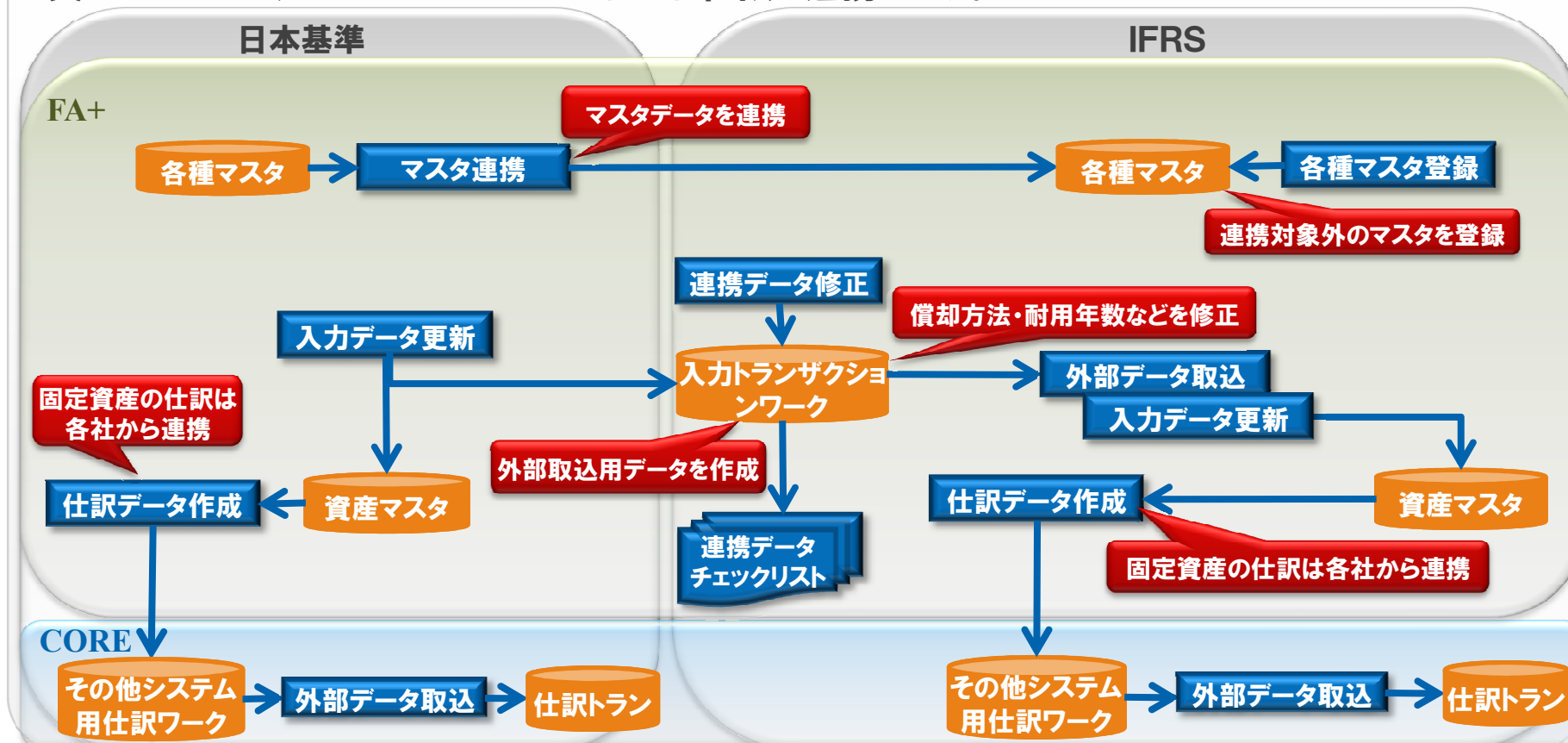
COREシリーズの複数帳簿対応では、COREとFA+で複数会社を作成します。
日本基準会社とIFRS会社2つの会社を運用することにより、**日本基準**と**IFRS**両方の残高を管理します。連携元会社に登録したマスタや仕訳・資産データは、連携機能を利用することで連携先にデータを連携することができます。



1. IFRS複数帳簿対応

■ FA+複数帳簿 運用フロー図

FA+の複数帳簿機能では、連携元会社で資産に対し異動処理を実施すると、連携先会社の外部データとして仕訳データが作成され連携します。日本基準会社とIFRS会社では算出される減価償却費が異なることから、FA+からCOREにそれぞれ仕訳を連携します。



1. IFRS複数帳簿対応

FA+の複数帳簿対応は、次の通りにリリースを行っています。

①FA+の複数帳簿対応の1次リリース

- **提供年月**
2012年12月19日
- **提供バージョン(パッチ)**
SP20120630版(FA+0087)
- **対象機能**
データ移行、マスタ連携、外部データ再連携など

②FA+複数帳簿対応の2次リリース

- **提供年月**
SP2013年6月30日
- **提供バージョン**
SP20130630版
- **対象機能**
連携データ修正、連携データチェックリスト、月次更新(一括処理)、年次更新(一括処理)など

1. IFRS複数帳簿対応

【IFRSマスタ連携マスタ】

連携元会社から連携先会社に連携するマスタを指定します。

IFRSマスタ連携マスタ登録

マスタID: 000 SUPERSTREAM 連携先会社: 2011 SUPERSTREAM

マスタ名称: 連携先マスタ

マスタID	マスタ名称	連携先会社	連携先マスタ
000001	コンプライアンス	☒	☒
000002	コンプライアンス	☒	☒
000003	税務処理	☒	☒
000004	税務処理	☒	☒
000005	税務処理	☒	☒
000006	税務処理	☒	☒
000007	税務処理	☒	☒
000008	税務処理	☒	☒
000009	税務処理	☒	☒
000010	税務処理	☒	☒
000011	税務処理	☒	☒
000012	税務処理	☒	☒
000013	税務処理	☒	☒
000014	税務処理	☒	☒
000015	税務処理	☒	☒
000016	税務処理	☒	☒
000017	税務処理	☒	☒
000018	税務処理	☒	☒
000019	税務処理	☒	☒
000020	税務処理	☒	☒
000021	税務処理	☒	☒
000022	税務処理	☒	☒
000023	税務処理	☒	☒
000024	税務処理	☒	☒
000025	税務処理	☒	☒
000026	税務処理	☒	☒
000027	税務処理	☒	☒
000028	税務処理	☒	☒
000029	税務処理	☒	☒
000030	税務処理	☒	☒

戻る 印刷 終了 更新

1. IFRS複数帳簿対応

○下記のようなマスタに対して連携をするかどうか設定していきます。

マスタ連携ではデータチェックは行っておらず、単純に上書きしています。設定によっては、マスタデータが不整合になる場合がありますので、連携対象のマスタは影響を検討上で設定してください。

【IFRSマスタ連携マスタ登録の設定例】

テーブル名	連携対象・対象外 (デフォルト値)	備考
コード定義マスタ(FACDTMST)	連携対象	
コントロールテーブル(FACTLMST)	連携対象外	管理単位マスタは[月次更新]や[償却計算の取消]で更新しますので、連携対象外に設定してください。管理単位マスタと紐付いているコントロールテーブルも同様です。
減損階層マスタ(FAGLVMST)	連携対象	
減損パターンマスタ(FAGPNMST)	連携対象	
減損損失情報マスタ(FAGSJMST)	連携対象外	連携対象に設定する場合は、減損情報のCOREインターフェース方法の設定を合わせておいてください。 またCOREの科目マスタに存在しない科目コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
グループマスタ(FAGRPMST)	連携対象	
費用管理部門階層名称マスタ(FAHBLMST)	連携対象	
費用管理部門マスタ(FAHBMMST)	連携対象	
配分率マスタ(FAHBTMST)	連携対象	
配賦パターンマスタ(FAHPTMST)	連携対象	
配賦率マスタ(FAHRTMST)	連携対象	

1. IFRS複数帳簿対応

テーブル名	連携対象・対象外 (デフォルト値)	備考
除去債務形態マスタ(FAJSKMST)	連携対象	COREの科目マスタに存在しない科目コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
除去債務割引計算利率マスタ(FAJWRMST)	連携対象	
管理単位別部門マスタ(FAKBBMST)	連携対象外	未連携の異動データ残っている状態で、対象の所属部門が更新されると、その後、連携データが[外部データ取込]でエラーとなることがあります。
契約管理部門マスタ(FAKBMMST)	連携対象	
契約形態マスタ(FAKEIMST)	連携対象	
インターフェース科目マスタ(FAKMKMST)	連携対象外	COREの科目マスタに存在しない科目コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
管理単位マスタ(FAKNRMST)	連携対象外	理単位マスタは[月次更新]や[償却計算の取消]で更新しますので、連携対象外に設定してください。
機種分類マスタ(FAKSBMST)	連携対象	
機種分類階層名称マスタ(FAKSNMST)	連携対象	
リース会社マスタ(FALSKMST)	連携対象	COREの共通マスタに存在しない共通仕入先・支払方法・振込元口座管理コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
設置場所マスタ(FASBAMST)	連携対象	
支払方法マスタ(FASHHMST)	連携対象	COREの共通マスタに存在しない支払方法コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
償却情報マスタ(FASJHMST)	連携対象外	日本基準とIFRSで償却情報マスタの償却方法・耐用年数などの設定を変更する場合は連携しないでください。 COREの科目マスタに存在しない科目コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
資産科目マスタ(FASKMMST)	連携対象	

テーブル名	連携対象・対象外 (デフォルト値)	備考
取得形態マスタ(FASTKMST)	連携対象	COREの科目マスタに存在しない科目コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
仕訳情報マスタ(FASWJMST)	連携対象外	COREの科目マスタに存在しない科目コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
取引先マスタ(FATRHMST)	連携対象	COREの共通マスタに存在しない共通仕入先・支払方法・振込元口座管理コードでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
FA+ユーザーマスタ(FAUSRMST)	連携対象外	未連携の異動データ残っている状態で、部門間移動の制御・他管理単位移動権限などが更新されると、その後、連携データが[外部データ取込]でエラーとなることがあります。 COREのユーザマスタに存在しないユーザでも連携できてしまうため、使用する際にはご注意ください。
割引計算利子率マスタ(FAWKRMST)	連携対象	
消費税率マスタ(FAZRTMST)	連携対象	

関連性のあるマスタを連携する場合は、一部だけ連携するような設定にはせず、全部連携する設定にしてください。

関連するグループ	テーブル名
管理単位関連	管理単位マスタ(FAKNRMST)、コントロールテーブル(FACTLMST)
償却情報関連	償却情報マスタ(FASJHMST)、仕訳情報マスタ(FASWJMST)
減損グループ関連	減損パターンマスタ(FAGPNMST)、減損階層マスタ(FAGLVMST)、 グループマスタ(FAGRPMST)、配分率マスタ(FAHBTMST)
費用管理部門関連	費用管理部門階層名称マスタ(FAHBLMST)、費用管理部門マスタ(FAHBMMST)
機種分類関連	機種分類階層名称マスタ(FAKSNMST)、機種分類マスタ(FAKSBMST)
配賦関連	配賦パターンマスタ(FAHPTMST)、配賦率マスタ(FAHRTMST)
ユーザー関連	管理単位別部門マスタ(FAKBBMST)、FA+ユーザーマスタ(FAUSRMST)

1. IFRS複数帳簿対応

【マスタ連携】

連携元会社でマスタに追加・変更を行った場合、連携先会社に連携できます。

マスタ連携

処理区分
☒ データ連携
☐ データ連携ログ照会
☐ データ連携ログ削除

連携会社
 連携元会社: 0001 SUPERSTREAM
 連携先会社: 0001 SUPERSTREAM

連携期間
☒ 全指定
☐ 個別指定

連携区分
☒ 追加
☒ 変更

☒ 全指定

テーブル名	テーブル名称	追加件数	変更件数	エラー件数
☒ FASBDMST	繰越分類マスタ	2	0	0
☒ FASJHMST	繰越情報マスタ	0	1	0
☒ FASNMST	仕訳情報マスタ	0	1	0

連携対象条件は、下記になります
 ・IFRSマスタ連携マスタで連携対象に設定
 ・追加・修正が行われているデータ

確定 印刷 画面印刷 参照 明細確認 連携選択 連携解除 取消 閉じる 実行

0001 SUPERSTREAM ICAPS NUM CORE 2012/11/07 7:12:10 PM

【FA+初期値マスタ登録】

[illegible]

1. IFRS複数帳簿対応

○下記のような異動処理に対して連携を行うのか設定します。

連携元会社から異動データの連携を行った際、日本基準とIFRSでは減価償却費が異なることから、そのまま更新すると不整合な金額になることがあります。連携対象の異動データは影響を検討の上、設定してください。

【IFRSマスタ連携マスタ登録の設定例】

プログラム名称	連携対象・対象外	備考
外部データ取込(新規)	連携対象	
外部データ取込(変更)	連携対象外	変更データは変更した項目のみ連携されます。 ただし、減価償却費などを変更したデータを連携した場合、差額ではなく、変更後の値が連携されるため、日本基準とIFRSで償却方法などが異なる場合は、問題が生じますので、連携対象外に設定してください。
外部データ取込(移動)	連携対象	一部処理の場合には、連携元先の取得価額が同じであることを確認して連携してください。
外部データ取込(処分)	連携対象	一部処理の場合には、連携元先の取得価額が同じであることを確認して連携してください。
外部データ取込(遊休休止)	連携対象	
外部データ取込(用途変更)	連携対象外	日本基準で用途変更を行うのは、税制改正が多いため、連携対象外の設定での運用が望ましいと想定しています。
外部データ取込(減損損失)	連携対象外	日本基準とIFRSでは帳簿価額が異なることから減損損失額も異なることが想定されますので、連携対象外に設定してください。
資産記帳(新規)	連携対象	
資産記帳(変更)	連携対象外	変更データは変更した項目のみ連携されます。 ただし、減価償却費などを変更したデータを連携した場合、差額ではなく、変更後の値が連携されるため、日本基準とIFRSで償却方法などが異なる場合は、問題が生じますので、連携対象外に設定してください。
資産の一括変更	連携対象外	日本基準で一括変更を行うのは、税制改正が多いため、連携対象外の設定での運用が望ましいと想定しています。
資産の移動入力	連携対象	一部処理の場合には、連携元先の取得価額が同じであることを確認して連携してください。

プログラム名称	連携対象・対象外	備考
資本的支出資産の移動入力	連携対象外	一部処理の場合には、連携元先の取得価額が同じであることを確認して連携してください。
資産の一括移動	連携対象	
資産の処分入力	連携対象	一部処理の場合には、連携元先の取得価額が同じであることを確認して連携してください。
資本的支出資産の処分入力	連携対象外	一部処理の場合には、連携元先の取得価額が同じであることを確認して連携してください。
資産の一括処分	連携対象	
遊休休止開始終了	連携対象	
用途変更	連携対象外	日本基準で用途変更を行うのは、税制改正が多いため、連携対象外の設定での運用が望ましいと想定しています。
用途変更(資本的支出)	連携対象外	日本基準で用途変更を行うのは、税制改正が多いため、連携対象外の設定での運用が望ましいと想定しています。
資産の減損損失入力	連携対象外	日本基準とIFRSでは帳簿価額が異なることから減損損失額も異なることが想定されますので、連携対象外に設定してください。
トランザクションNO設定	-	連携データ「トランザクションNO」の開始値を設定できます
処理会社単位設定	-	月次更新などの処理を一括で行うか、個別で行うか設定できます

【データ移行】

管理単位 From To

資産番号 From To

取得日 From To

種類 From To

構造/用途 From To

科目 From To

負担部門 From To

作成先PATH

参照

連携先会社にデータ移行を行うため、
連携元会社の資産マスタからFANTRWRK、
FANTRWRKのフォーマットデータを出力します

画面印刷 閉じる 実行

SDBT SUPERSTREAM ICAPS NUM SCRL 2012/11/06 2:28:22 PM

■ 注意点

当機能は複数帳簿運用を行う際、データ移行を行うために使用する機能になります。それ以外の用途では利用しないでください。

【入力データ更新】

連携元会社で入力データ更新を行った際、連携先会社に連携データが作成されます。

The screenshot shows a Windows-style application window titled '入力データ更新' (Update Input Data). The window has a menu bar with 'ファイル(F)', '編集(E)', 'メニュー(M)', 'ウインドウ(W)', and 'ヘルプ(H)'. The main area contains three sections for data selection:

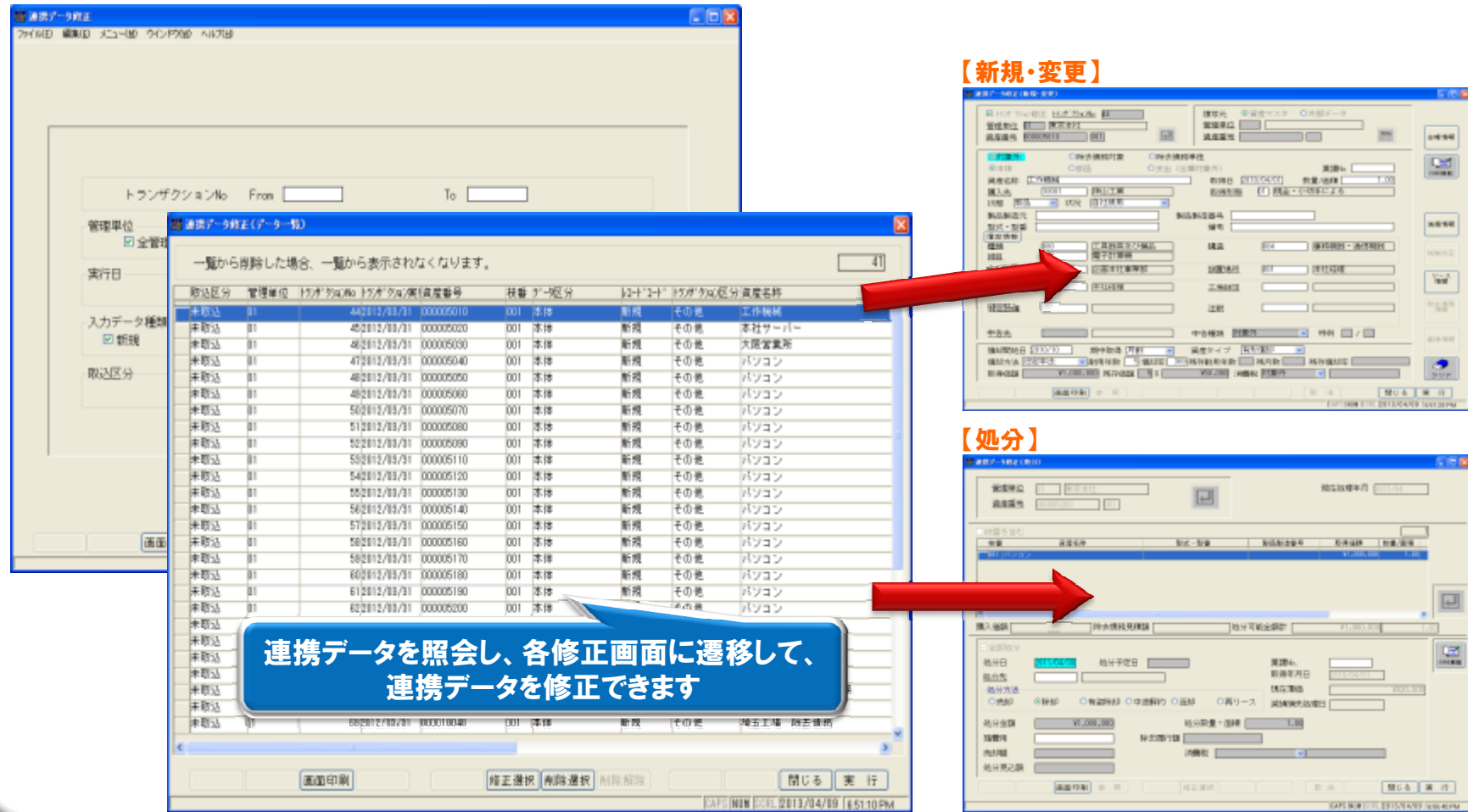
- 管理単位 (Management Unit):** Includes 'FROM' and 'TO' labels with corresponding text input fields and a tilde (~) symbol.
- 入力日付 (Input Date):** Includes 'FROM' and 'TO' labels with date input fields. The 'FROM' field contains '2012/11/09' and the 'TO' field contains '2012/11/09'.
- ユーザーID (User ID):** Includes two radio buttons: '自分のみ' (Only myself) which is selected, and '他の入力者分含む' (Include other inputters).

At the bottom of the window, there are buttons for '画面印刷' (Print Screen), '参照' (Reference), '閉じる' (Close), and '実行' (Execute). The status bar at the very bottom displays 'IS001 SUPERSTREAM CAPS/NUM SCRL 2012/11/09 3:12:28 PM'.

1. IFRS複数帳簿対応

【連携データ修正】

連携先会社に連携されたデータを、取込前に各画面から修正できます。



連携データ修正 (アーダー)

一覧から再録した場合、一覧から表示されなくなります。

取引区分	管理単位	トランザクションNo	トランザクションNo/年度	振替	アーダー区分	トランザクションNo/年度	振替
未取込	01	442012/03/31	000005010	001	本株	新規	その他
未取込	01	452012/03/31	000005020	001	本株	新規	その他
未取込	01	462012/03/31	000005030	001	本株	新規	その他
未取込	01	472012/03/31	000005040	001	本株	新規	その他
未取込	01	482012/03/31	000005050	001	本株	新規	その他
未取込	01	492012/03/31	000005060	001	本株	新規	その他
未取込	01	502012/03/31	000005070	001	本株	新規	その他
未取込	01	512012/03/31	000005080	001	本株	新規	その他
未取込	01	522012/03/31	000005090	001	本株	新規	その他
未取込	01	532012/03/31	000005110	001	本株	新規	その他
未取込	01	542012/03/31	000005120	001	本株	新規	その他
未取込	01	552012/03/31	000005130	001	本株	新規	その他
未取込	01	562012/03/31	000005140	001	本株	新規	その他
未取込	01	572012/03/31	000005150	001	本株	新規	その他
未取込	01	582012/03/31	000005160	001	本株	新規	その他
未取込	01	592012/03/31	000005170	001	本株	新規	その他
未取込	01	602012/03/31	000005180	001	本株	新規	その他
未取込	01	612012/03/31	000005190	001	本株	新規	その他
未取込	01	622012/03/31	000005200	001	本株	新規	その他

連携データを照会し、各修正画面に遷移して、連携データを修正できます

【新規・変更】

【処分】

1. IFRS複数帳簿対応

【連携データ修正(削除)】

不要な連携データを削除することもできます。

例えば、IFRS上資産計上しない繰延資産・長期前払費用などは、連携された取得データを削除してください。

連携データ修正(データ一覧)

一覧から削除する場合 一覧から表示しない場合

取引区分	取引コード	取引金額	取引日	取引内容	取引相手	取引種別	取引区分
※取引	0	1,850,000/25	00000002	70	本庫	繰延資産	繰延資産
※取引	0	1,950,000/26	00000004	70	本庫	繰延資産	繰延資産
※取引	0	1,950,000/27	00000001	70	本庫	繰延資産	繰延資産

削除選択ボタンをクリックして、不要な連携データを削除できます

1. IFRS複数帳簿対応

【連携データ修正(新規・変更)】

連携先会社に連携された新規・変更データを、取込前に画面から修正できます。
主に償却方法や耐用年数などを変更します。

POINT

償却方法や耐用年数などを償却情報マスタから再読み込みする場合は、
[償却情報]ボタンをクリックし、同じ償却情報を選択しなおしてください。

【連携データ修正(処分・移動)】

連携先会社に連携された処分・移動データを、取込前に画面から修正できます。

【連携データ修正(処分)】

【連携データ修正(移動)】

1. IFRS複数帳簿対応

注意

連携元先の会社で取得価額が異なる資産に対して、一部異動を行った場合、連携データ修正(処分・移動)画面で異動金額を変更してください。

なお、全部異動を行った場合は、異動金額を変更する必要はありません。

【一部異動】の場合

<連携実行前>

連携元会社

取得価額

1,000

連携先会社

取得価額

1,100

一部処分を
500円(50%)で登録

連携実行
(入力データ更新)

<連携実行後>

連携元会社

取得価額

500

連携先会社

取得価額

600

一部処分が
500円で連携される

一部処分が
50%で行われない

【全部異動】の場合

<連携実行前>

連携元会社

取得価額

1,000

連携先会社

取得価額

1,100

全部処分を登録

連携実行
(入力データ更新)

<連携実行後>

連携元会社

取得価額

1,000

連携先会社

取得価額

1,100

取得価額は
連携されない

全部(1,100円)が
処分される

1. IFRS複数帳簿対応

【連携データ修正(減損計上)】

連携先会社に連携された減損計上データを、取込前に画面から修正できます。
帳簿価額が異なるため、減損損失額が異なりますので正しい金額に修正してください。

実行ボタンを押すと、
再計算するかどうかメッセージが表示されます

POINT

連携元先会社で耐用年数が異なっている場合、連携データに設定されている残存耐用年数をそのまま利用することはできません。連携データ修正(減損計上)画面を開いて実行ボタンを押し、連携先会社の資産マスタの耐用年数から残存耐用年数を再計算させてください。

1. IFRS複数帳簿対応

複数帳簿運用を行っている場合、連携元先の会社に対し月次更新などを一括処理することが可能です。※FA+初期値マスタで一括処理を実施するかどうか選択できます。

【対象】

・管理単位マスタ

・償却計算の取消

・月次更新

・年次更新

【月次更新(一括処理)】

【連携元会社】

現在処理月	償却済年月
2013/05	2013/04



【連携先会社】

現在処理月	償却済年月
2013/05	2013/04

現在処理月の同期をとって運用できます

2. 少額資産の外部データ取込対応

■ 機能追加背景

従来、少額資産（中小企業税制対策資産）は「外部データ取込」の対象外でした。そのため、複数帳簿での運用時に少額資産が連携された場合、連携データを取り込むことができませんでした。複数帳簿対応の一環として少額資産を取り込めるように対応しております。

■ 機能内容

○少額資産について下記データを取り込めるようになります。
（・取得 ・全部移動 ・全部処分 ・遊休休止）

※注意

以下のデータは取り込めませんのでご注意ください。

（・変更 ・一部移動 ・一部処分 ・用途変更 ・減損損失）

■ メリット・効果

少額資産を画面から1件ごと入力するだけでなく、一括で取り込むことが可能です。

■ 対応プログラム

・外部データ取込/FB000000

3.外部データ取込のクリア処理対応

■ 機能追加背景

従来、「外部データ取込」では項目情報をクリアすることができませんでした。そのため、複数帳簿での運用時に、連携元会社で項目情報をクリアした場合、連携先会社に反映することができませんでした。

複数帳簿対応の一環として項目をクリアできるように対応しています。

■ 機能内容

「外部データ取込」で、「入力ランザクションワーク(FANTRWRK)」の下記項目に対し、半角スペース(1文字)を設定して変更取込を行った場合、コードをクリアできます。

<対象項目>

- | | | |
|------------|---------------|--------------|
| ・稟議No | ・購入先 | ・製品製造元 |
| ・形式・型番 | ・製品製造番号 | ・FA+機能コード1～8 |
| ・外貨コード | ・CORE機能コード1～4 | ・備考 |
| ・配賦パターンコード | | |

■ メリット・効果

項目情報を画面から1件ごとクリアするだけでなく、一括でクリアすることが可能です。

■ 対応プログラム

- ・外部データ取込/FB000000

※SP20120630版のSSI掲載モジュール【FA+0088】で提供済になります。

4.外部データ取込の取得価額省略対応

■ 機能追加背景

従来、「外部データ取込」では、全部移動・全部処分・用途変更のデータについて取得価額を指定する必要がありました。そのため、複数帳簿での運用時に、連携元先会社で取得価額が異なる資産が存在すると取り込むことができませんでした。

複数帳簿対応の一環として取得価額を省略しても取り込むことができるよう対応しています。

■ 機能内容

全部移動・全部処分・用途変更データについて、会/取得価額・税/取得価額を省略しても取り込めるように対応しています。

■ メリット・効果

FANTRWRKの全部移動・全部処分・用途変更のデータを簡単に作成することができるようになりました。

■ 対応プログラム

・外部データ取込/FB000000

※SP20120630版のSSI掲載モジュール【FA+0087】で提供済になります。

5. IFRS非継続事業対応

■ 機能追加背景

IFRSを任意適用している場合、非継続事業の損益を把握するために、COREの損益計算書を出し、FA+から連携された償却費仕訳なども含めて、非継続事業に関する税引後損益を確認していました。

上記運用で非継続事業の損益は確認できますが、FA+ではさらに便利機能として[固定資産情報照会]にCORE機能コードを出力するようにしました。

■ 機能内容

[固定資産情報照会]にCORE機能コードを出力するように対応しました。

■ メリット・効果

各固定資産に対して、どのようなCORE機能コードが設定されているか確認できるようになりました。

■ 対応プログラム

・固定資産情報照会/FR008000

【固定資産情報照会画面】

管理単位: 01 東京本社

資産番号: 00001000 - 001

資産名称: パソコン

購入先: 株式会社

製品製造元:

製品製造番号:

種類: 工具器具及び機

管理部署: 本社経理

電子計算機:

中古種類: 工具、器具及び機

備考:

CORE機能コードが表示されます

【固定資産台帳一覧】

資産番号	資産名称	取得年月	取得価額	減価率	減価額	現在価額	残存価額	備考
00001000	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001001	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001002	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001003	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001004	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001005	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001006	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001007	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001008	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001009	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	
00001010	パソコン	2013/08/12	100,000	10%	10,000	90,000	90,000	

CORE機能コードが表示されます

6.除去債務見積変更時の算出方法変更

■ 機能追加背景

見積変更時に、除去債務見積額と併せて除去債務履行予定日などを変更した場合、現状の計算式では、その後の利息計算に差が生じ、最終月での除去債務増加利息額の調整が大きくなることがありました。

■ メリット・効果

計算式を変更することにより、その後利息計算を行っていくと、最終月の除去債務増加利息額を計上したときに、除去債務見積額に近い金額になるようになりました。

■ 対応プログラム

・資産記帳/FE001000

※SP20120630版のSSI掲載モジュール【FA+0086】で提供済になります。

6. 除去債務見積変更時の算出方法変更

■ 機能内容

見積変更によって除去債務見積額が変更されたときには、変更後の見積額を元に、残存期間で割引計算を行って現在価値を算出するように変更しています。算出された割引現在価値を除去債務残高として、変更前後の除去債務残高の差額を増減の金額とするようにしています。

< 除去債務残高の算出方法 >

利息計算：月計算の場合

除去債務残高 = 変更後の除去債務見積額 $\div$ $(1 + \text{加重平均割引率} \div 12)^{\text{残存月数}}$

利息計算：年計算の場合

除去債務残高(年数経過時点) = 変更後の除去債務見積額 $\div$ $(1 + \text{加重平均割引率})^{\text{残存年数}}$
除去債務残高 = 除去債務残高(年数経過時点) $\div$ $(1 + \text{加重平均割引率} \times \text{残存月数} / 12)$

< 割引現在価値の算出方法 >

除去債務残高の差額 = 変更後の除去債務残高 - 変更前の除去債務残高

割引現在価値 = 変更前の割引現在価値 + 除去債務残高の差額

7.外部データ取込のエラーチェック仕様変更

■ 機能内容

[外部データ取込] についてエラーチェックの仕様変更を行いました。

- ①非償却資産の残存価額に、下記条件を満たさない金額を指定しての取込を不可としました。
・会/残存価額≠会/取得価額－会/減価償却総累計額－減損損失総累計額
- ②取得や売却データの税処理コードが「000:対象外」の場合、消費税額に金額を指定できないようにしました。
- ③[資産記帳画面]から登録した所有権移転ファイナンスリースを処分する場合、処分方法には「売却、除却、有姿除却」の指定ではなく、「中途解約、返却、再リース」の指定させるように変更しました。

■ 対応プログラム

・外部データ取込/FB000000



【その他新規追加・改善機能】

テーマ	改修箇所	改修内容
200%定率法の 別表16出力対応 ※FA+0086で提供済	【内容】 200%定率法の別表16出力対応	【対応】 ○「別表16(資産単位)/別表16(通算単位)/別表16補助リスト(資産単位)/別表16補助リスト(通算単位)」の「十六(二)定率法」に、償却方法が「200%定率法」の資産を出力可能とする。 ○「償却不足調整処理(資産単位)/償却不足調整処理(通算単位)」で、償却方法が「200%定率法」も不足調整処理を可能とする。



	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
新規テーブル	FAIFSWRK	FA+IFRS排他制御ワーク		
	FANDWBAK	入力トランザクション退避ワーク		
	FANDWGTN	外部データ用入力データワークトランザクション		
	FANDWGVW	外部データ用入力データワークトランザクションによるビュー		
	FANW2BAK	入力トランザクション退避ワーク2		
	FANW2GTN	外部データ用入力データワークトランザクション2		
	FANW3GTN	外部データ用入力データワークトランザクション3		
	FARCVERR	リカバリーエラー情報テーブル		
	FARCVRK3	リカバリー資産履歴3テーブル		
	FARCVUPD	リカバリー更新情報テーブル		
	FARDPWRK	連携データ印刷ワーク		
	FARKDMST	FA+初期値マスタ		
	FARKDWRK	FA+初期値ワーク		
	FASN2GMT	外部データ用資産マスタ2		
	FASN3GMT	外部データ用資産マスタ3		
	FASSNGMT	外部データ用資産マスタ		
	FASSNLCK	固定資産レコードロックテーブル		
	FASTMMST	出力定義明細マスタ		
	WFB062000	連携データ再作成ワーク		
	WFE001000	資産記帳ワーク		
	WFP063000	連携元先確認リスト出力ワーク		
	WFP064000	連携データチェックリストワーク		
	FAZZ1DTLCDT	IFRSマスタ連携ログ (FACDTMST)		
	FAZZ1DTLCTL	IFRSマスタ連携ログ (FACTLMST)		
	FAZZ1DTLGLV	IFRSマスタ連携ログ (FAGLVMST)		
	FAZZ1DTLGPN	IFRSマスタ連携ログ (FAGPNMST)		
	FAZZ1DTLGRP	IFRSマスタ連携ログ (FAGRPMST)		
	FAZZ1DTLGSJ	IFRSマスタ連携ログ (FAGSJMST)		
	FAZZ1DTLHBL	IFRSマスタ連携ログ (FAHBLMST)		
	FAZZ1DTLHBM	IFRSマスタ連携ログ (FAHBMMST)		

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
新規テーブル	FAZZ1DTLHBT	IFRSマスタ連携ログ (FAHBTMST)		
	FAZZ1DTLHPT	IFRSマスタ連携ログ (FAHPTMST)		
	FAZZ1DTLHRT	IFRSマスタ連携ログ (FAHRTMST)		
	FAZZ1DTLJSK	IFRSマスタ連携ログ (FAJSKMST)		
	FAZZ1DTLJWR	IFRSマスタ連携ログ (FAJWRMST)		
	FAZZ1DTLKBB	IFRSマスタ連携ログ (FAKBBMST)		
	FAZZ1DTLKBM	IFRSマスタ連携ログ (FAKBMMST)		
	FAZZ1DTLKEI	IFRSマスタ連携ログ (FAKEIMST)		
	FAZZ1DTLKMK	IFRSマスタ連携ログ (FAKMKMST)		
	FAZZ1DTLKNR	IFRSマスタ連携ログ (FAKNRMST)		
	FAZZ1DTLKSB	IFRSマスタ連携ログ (FAKSBMST)		
	FAZZ1DTLKSN	IFRSマスタ連携ログ (FAKSNMST)		
	FAZZ1DTLLSK	IFRSマスタ連携ログ (FALSKMST)		
	FAZZ1DTLSBA	IFRSマスタ連携ログ (FASBAMST)		
	FAZZ1DTLSHH	IFRSマスタ連携ログ (FASHHMST)		
	FAZZ1DTLSJH	IFRSマスタ連携ログ (FASJHMST)		
	FAZZ1DTLSKM	IFRSマスタ連携ログ (FASKMMST)		
	FAZZ1DTLSTK	IFRSマスタ連携ログ (FASTKMST)		
	FAZZ1DTLSWJ	IFRSマスタ連携ログ (FASWJMST)		
	FAZZ1DTLTRH	IFRSマスタ連携ログ (FATRHMST)		
	FAZZ1DTLUSR	IFRSマスタ連携ログ (FAUSRMST)		
	FAZZ1DTLWKR	IFRSマスタ連携ログ (FAWKRMST)		
	FAZZ1DTLZRT	IFRSマスタ連携ログ (FAZRTMST)		
カラム追加	FANR2VEW	入力ランザクションによるビュー2	VEW_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			VEW_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			VEW_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			VEW_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
	FANR3TRN	入力データランザクション3	NR3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			NR3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			NR3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FANR3TRN	入力データランザクション3	NR3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			NR3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			NR3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			NR3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)
			NR3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日(前回)
			NR3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			NR3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			NR3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年(前回)
			NR3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月(前回)
			NR3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日(前回)
			NR3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率(前回)
			NR3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率(前回)
			NR3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(前回)
			NR3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
			NR3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分(前回)
	FANT2WRK	入力ランザクションワーク2	NT2_RNK_KBN	連携区分
			NW3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			NW3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			NW3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			NW3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			NW3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			NW3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			NW3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)
			NW3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日(前回)
			NW3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			NW3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			NW3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年(前回)
			NW3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月(前回)
			NW3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日(前回)
			NW3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率(前回)

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FANW3TRN	入力データワークトランザクション3	NW3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率(前回)
			NW3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(前回)
			NW3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
			NW3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分(前回)
			NW3_RNK_PRG_ID	連携プログラムID
	FARK3BAK	統合退避資産履歴ワーク3	RK3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			RK3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			RK3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			RK3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			RK3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			RK3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日(前回)
			RK3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日(前回)
			RK3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率(前回)
			RK3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率(前回)
			RK3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分(前回)
	FARK3MST	資産履歴マスタ3	RK3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			RK3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			RK3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			RK3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			RK3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			RK3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FARK3MST	資産履歴マスタ3	RK3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日 (前回)
			RK3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日 (前回)
			RK3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率 (前回)
			RK3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率 (前回)
			RK3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分 (前回)
	FARK3WRK	資産履歴退避ワーク3	RK3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			RK3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			RK3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			RK3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			RK3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			RK3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年 (前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月 (前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日 (前回)
			RK3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日 (前回)
			RK3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率 (前回)
			RK3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率 (前回)
			RK3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額 (前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分 (前回)
	FARP3MST	レポート作成用資産履歴マスタ3	RK3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FARP3MST	レポート作成用資産履歴マスタ3	RK3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利子率
			RK3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利子率
			RK3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			RK3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			RK3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)
			RK3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日(前回)
			RK3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日(前回)
			RK3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利子率(前回)
			RK3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利子率(前回)
			RK3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利子率(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
			RK3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分(前回)
	FASN3BAK	統合退避資産ワーク3	SN3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利子率
			SN3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利子率
			SN3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利子率
			SN3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			SN3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			SN3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			SN3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)
			SN3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日(前回)
			SN3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日(前回)

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FASN3BAK	統合退避資産ワーク3	SN3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率(前回)
			SN3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率(前回)
			SN3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分(前回)
	FASN3MST	資産マスタ3	SN3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			SN3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			SN3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			SN3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			SN3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			SN3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			SN3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)
			SN3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日(前回)
			SN3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日(前回)
			SN3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率(前回)
			SN3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率(前回)
			SN3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額(前回)
			SN3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分(前回)
	FASR3MST	レポート作成用資産マスタ3	SR3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			SR3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			SR3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			SR3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			SR3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			SR3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年(前回)
			SR3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月(前回)

	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FASR3MST	レポート作成用資産マスタ3	SR3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日 (前回)
			SR3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値 (前回)
			SR3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価 (前回)
			SR3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年 (前回)
			SR3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月 (前回)
			SR3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日 (前回)
			SR3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率 (前回)
			SR3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率 (前回)
			SR3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率 (前回)
			SR3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額 (前回)
			SR3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分 (前回)
			STG_RNK_OUT_KBN	出力データ区分
	FASTGMST	出力定義マスタ	TN3_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
	FATS3MST	退避用資産マスタ3	TN3_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			TN3_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			TN3_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			TN3_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			TN3_JKS_LST_KEIJ_YY	除去債務計上年 (前回)
			TN3_JKS_LST_KEIJ_MM	除去債務計上月 (前回)
			TN3_JKS_LST_KEIJ_DD	除去債務計上日 (前回)
			TN3_JKS_LST_WGK_GAKU	割引現在価値 (前回)
			TN3_JKS_LST_MTM_HKJ_BOKA	見積変更時の簿価 (前回)
			TN3_JKS_LST_MTM_HK_YY	見積変更年 (前回)
			TN3_JKS_LST_MTM_HK_MM	見積変更月 (前回)
			TN3_JKS_LST_MTM_HK_DD	見積変更日 (前回)
			TN3_JKS_LST_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率 (前回)
			TN3_JKS_LST_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率 (前回)
			TN3_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率 (前回)
			TN3_JKS_LST_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額 (前回)
			TN3_JKS_LST_MTM_HEN_KBN	見積変更区分 (前回)



	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム追加	FAZT2WRK	入カトランザクションワーク2 (削除)	ZT2_RNK_KBN	連携区分
	WFP012001	入カトランザクション一覧表ワーク2	WRK_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			WRK_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			WRK_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			WRK_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			WRK_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
			WRK_JKS_MTM_HEN_KBN_NAME	見積変更区分名称
			WRK_RNK_PRG_ID	連携元プログラムID
			WRK_RNK_PRG_NAME	プログラム名称
	WFP059000	除去債務現在価値計算表ワーク	WRK_RNK_SYR_KBN	連携処理区分
			WRK_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(今回)
			WRK_JKS_MTM_HKBN_NAME	見積変更区分名称(今回)
			WRK_JKS_LST_KJU_HKN_RATE	加重平均利率(前回)
	WFP201001	リース資産入力チェックリスト(固定資産情報)	WRK_JKS_LST_MTM_HKBN_NAME	見積変更区分名称(前回)
			WRK_JKS_BFR_WKR_RATE	変更前割引計算利率
			WRK_JKS_CALC_WKR_RATE	計算時割引計算利率
			WRK_JKS_KJU_HKN_RATE	加重平均利率
			WRK_JKS_MTM_GAKU_PRE	前回除去債務見積額
			WRK_JKS_MTM_HEN_KBN	見積変更区分
カラム変更	WFR012000	減価償却計算明細照会ワーク	WRK_JKS_MTM_HEN_KBN_NAME	見積変更区分名称
	WFR012001	減価償却計算明細照会ワーク2	WRK_SSN_NO1	資産番号1
			WRK_SSN_NO1	資産番号1



SuperStream-field

- 対応内容 -

1. 復興特別税対応

付録1.その他

付録2.変更DBについて

1. 復興特別税対応

■ 機能追加背景

平成23年12月2日に東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法（平成23年法律第117号）が公布され、「復興特別所得税」が創設されました。

■ 機能内容

[源泉区分マスタ入力]の基本税率・上限額超税率を小数点以下3桁まで設定できるように対応し、所得税と復興特別所得税の合計税率を登録可能にしました。

※SP20120630版については、SSI掲載モジュール【FLWB0023】で対応済です。

■ メリット・効果

所得税と復興特別所得税の合計税率を乗じて計算した金額を、復興特別所得税額として算出することができます。

■ 対応プログラム

- ・源泉区分マスタ入力 (WEB) /WB001100
- ・源泉区分マスタ印刷 (WEB) /WB002800
- ・経理承認入力 /WB005000

※SP20120630版のSSI掲載モジュール【FLWB0023】で対応済になります。

1. 復興特別税対応

【源泉区分マスタ画面】

源泉区分マスタ

登録 修正 削除 印刷 クリア

源泉区分 20

源泉区分名称 復興特別税

基本税率 10.210 %

控除額 0

上限額 0

上限額超税率 0.000 %

勘定科目 81500 預り金 業務分類別管理

補助科目 地域

部門 10110 本社総務部 経理課 プロジェクト

税処理 対象外 ☐ 外税 ☒ 内税

端数区分 四捨五入 源泉税対象金額 概算金額

No	源泉区分名称	基本税率	控除額	上限額	上限額超税率	勘定科目	補
1	10 預かり源泉税	10.000%			0.000%	預り金	
2	20 復興特別税	10.210%			0.000%	預り金	

明細確定 追加 修正 削除 クリア

確定 終了

■ 注意点

[源泉税請求書の入力]では、[源泉区分マスタ]の税率に従って「源泉税額」が初期表示されます。

1. 復興特別税対応

【源泉税請求書入力画面】

2013/06/17 - olabo基本会社
源泉税請求書入力 ユーザ名▶ 宮本 社員名▶ 宮本 砂切 登録 確定 戻る

基本情報 明細情報 相手勘定 請求情報

追加 削除

明細変更番号

摘要 源泉税区分 復興特別税

科目 73200 教育費 支払金額 300,000

補助科目 源泉税額 30,630

部門 10610 本社総務部 経理課 差引支払金額 269,370

相手先 業務分類管理 地域 プロジェクト

税処理 000 対象外 (○ 外税 ○ 内税) 金額/消費税 300,000 0

明細合計 300,000

選択No	摘要	科目	補助科目	部門	相手先区分	相手先名	業務分類管理	地域	プロジェクト	税処理	入力区分	源泉税区分	支払金額	源泉税額	差引支払金額	消費税	支払金額
1	教育費	73200		本社総務部 経理課						対象外		復興特別税	300,000	30,630	269,370	0	300,000

■ 計算式

[支払金額] ¥300,000 × [源泉税10% + 復興特別税] 0.1021 (端数: 切り捨て)
= [源泉税額] ¥30,630

1. 復興特別税対応

【経理承認入力-明細変更 画面】

源泉税請求書入力

明細変更

伝票No: 50000001 請求書No: 0000/00/00

入力部門: 本社総務部 経理課 請求書日付: 2013/06/17

経費計上日: 2013/07/31 支払先振込情報

支払方法: FB(電信) 支払予定日: 2013/07/31 0000/00/00

伝票種別: 計上支払(掛票)

計上源泉区分: 復興特別税

明細摘要: 講師料

科目: 教育費

補助科目: 本社総務部 経理課

相手先: 0000/00/00

支払金額: 300,000 消費税額: 0

消費税処理: 対象外

源泉税区分: 復興特別税

支払金額: 300,000 源泉税額: 30,630 差引支払金額: 269,370

No.	摘要	科目	補助科目	部門
1	講師料	教育費		本社総務部 経理課

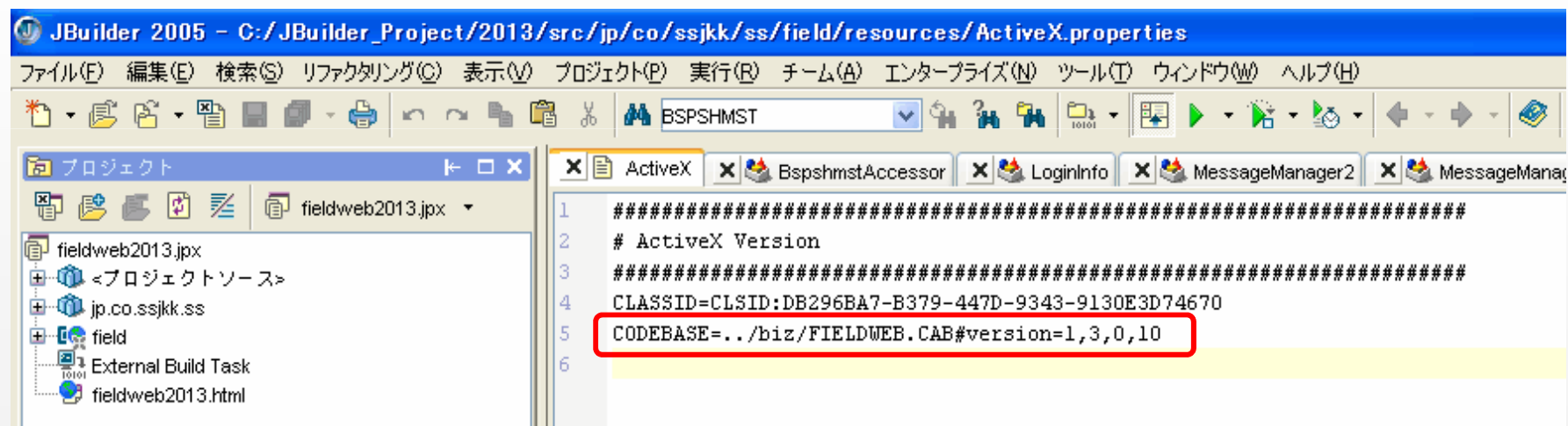
支払金額合計: 300,000 30,630 269,370

■ 計算式

[支払金額] ¥300,000 × [源泉税10% + 復興特別税] 0.1021(端数: 切り捨て)
= [源泉税額] ¥30,630

■ ActiveX.properties ファイルの変更

ActiveXのバージョン管理情報を [Messages_ja_JP.properties] に保持していましたが、新たに [ActiveX.properties] ファイルを追加して管理するようにしました。
パッチ提供時に [Messages_ja_JP.properties] の設定が上書きされませんので、今後ActiveXに関するパッチの提供が容易になります。



付録2.変更DBについて

■ 変更DB一覧

変更内容	テーブルID	テーブル名	カラム名	項目名
カラム定義修正	BSGSNMST	源泉区分マスタ	GSN_KIHON_ZEI_RIT	基本税率
			GSN_JYOUGEN_CYOU_GAKU	上限額超税率



TOOL

- 対応内容 -

1. *field*配信機能
2. ログの自動削除機能
3. その他

TOOL

1. *field*クライアントモジュール配信機能



■ 機能追加背景

*field*クライアントモジュールの適用作業はクライアントマシン毎にアップデート作業が必要でした。

■ 機能内容

*SuperStream-CORE*シリーズと同様に、*field*のクライアントモジュールについても、配信サーバーとの差分を自動認識して同期をとる仕組みを追加しました。

■ メリット・効果

クライアントマシン毎にモジュールのアップデート作業を行う必要がなくなります。
配信設定情報はデータベースに持ち、業務ユーザは通常通り*field*を起動するだけです。
配信を意識する必要はありません。

■ 対応プログラム

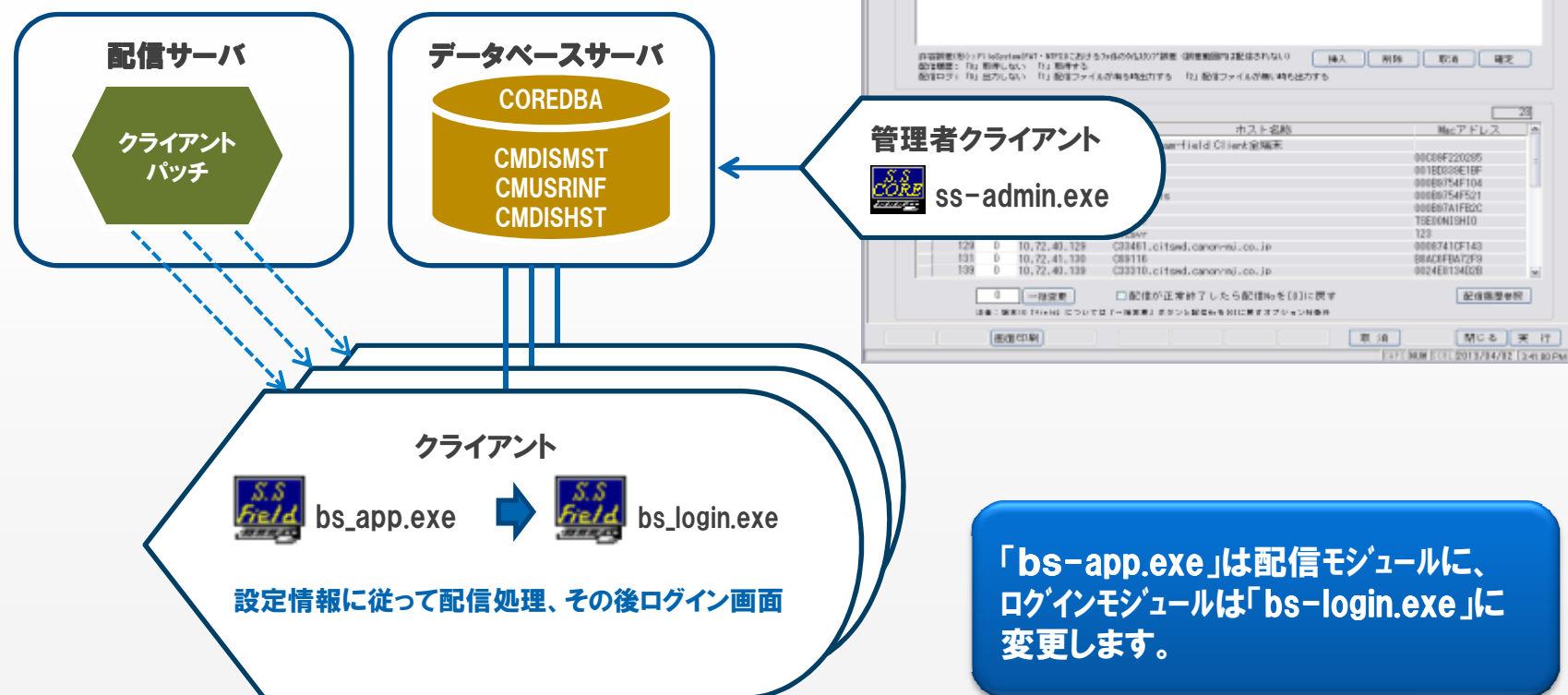
・配信設定:モジュール配信設定／TC000100(管理者メニュー) 配信プログラム:bs-app.exe

TOOL

1. *field*クライアントモジュール配信機能

SuperStream-CORE

【関連図】



TOOL

1. *field*クライアントモジュール配信機能

SuperStream-CORE

【モジュール配信設定】

モジュール配信設定

ファイル: C:\JMS\ランタイム\JMS01

配信先点ノード設定

配信先点	許可範囲	配信先点	配信先点	配信先点ノード名
0	000000	0	000000	000000
1	000000	1	000000	000000
2	000000	2	000000	000000

※ 配信先点: 0: File, 1: HTTP, 2: FTP, 3: SFTP, 4: NFS, 5: NTP, 6: SMTP, 7: POP3, 8: IMAP, 9: LDAP, 10: RDP, 11: VNC, 12: SSH, 13: Telnet, 14: HTTP, 15: HTTPS, 16: FTP, 17: SFTP, 18: NFS, 19: NTP, 20: SMTP, 21: POP3, 22: IMAP, 23: LDAP, 24: RDP, 25: VNC, 26: SSH, 27: Telnet, 28: HTTP, 29: HTTPS, 30: FTP, 31: SFTP, 32: NFS, 33: NTP, 34: SMTP, 35: POP3, 36: IMAP, 37: LDAP, 38: RDP, 39: VNC, 40: SSH, 41: Telnet, 42: HTTP, 43: HTTPS, 44: FTP, 45: SFTP, 46: NFS, 47: NTP, 48: SMTP, 49: POP3, 50: IMAP, 51: LDAP, 52: RDP, 53: VNC, 54: SSH, 55: Telnet, 56: HTTP, 57: HTTPS, 58: FTP, 59: SFTP, 60: NFS, 61: NTP, 62: SMTP, 63: POP3, 64: IMAP, 65: LDAP, 66: RDP, 67: VNC, 68: SSH, 69: Telnet, 70: HTTP, 71: HTTPS, 72: FTP, 73: SFTP, 74: NFS, 75: NTP, 76: SMTP, 77: POP3, 78: IMAP, 79: LDAP, 80: RDP, 81: VNC, 82: SSH, 83: Telnet, 84: HTTP, 85: HTTPS, 86: FTP, 87: SFTP, 88: NFS, 89: NTP, 90: SMTP, 91: POP3, 92: IMAP, 93: LDAP, 94: RDP, 95: VNC, 96: SSH, 97: Telnet, 98: HTTP, 99: HTTPS, 100: FTP, 101: SFTP, 102: NFS, 103: NTP, 104: SMTP, 105: POP3, 106: IMAP, 107: LDAP, 108: RDP, 109: VNC, 110: SSH, 111: Telnet, 112: HTTP, 113: HTTPS, 114: FTP, 115: SFTP, 116: NFS, 117: NTP, 118: SMTP, 119: POP3, 120: IMAP, 121: LDAP, 122: RDP, 123: VNC, 124: SSH, 125: Telnet, 126: HTTP, 127: HTTPS, 128: FTP, 129: SFTP, 130: NFS, 131: NTP, 132: SMTP, 133: POP3, 134: IMAP, 135: LDAP, 136: RDP, 137: VNC, 138: SSH, 139: Telnet, 140: HTTP, 141: HTTPS, 142: FTP, 143: SFTP, 144: NFS, 145: NTP, 146: SMTP, 147: POP3, 148: IMAP, 149: LDAP, 150: RDP, 151: VNC, 152: SSH, 153: Telnet, 154: HTTP, 155: HTTPS, 156: FTP, 157: SFTP, 158: NFS, 159: NTP, 160: SMTP, 161: POP3, 162: IMAP, 163: LDAP, 164: RDP, 165: VNC, 166: SSH, 167: Telnet, 168: HTTP, 169: HTTPS, 170: FTP, 171: SFTP, 172: NFS, 173: NTP, 174: SMTP, 175: POP3, 176: IMAP, 177: LDAP, 178: RDP, 179: VNC, 180: SSH, 181: Telnet, 182: HTTP, 183: HTTPS, 184: FTP, 185: SFTP, 186: NFS, 187: NTP, 188: SMTP, 189: POP3, 190: IMAP, 191: LDAP, 192: RDP, 193: VNC, 194: SSH, 195: Telnet, 196: HTTP, 197: HTTPS, 198: FTP, 199: SFTP, 200: NFS, 201: NTP, 202: SMTP, 203: POP3, 204: IMAP, 205: LDAP, 206: RDP, 207: VNC, 208: SSH, 209: Telnet, 210: HTTP, 211: HTTPS, 212: FTP, 213: SFTP, 214: NFS, 215: NTP, 216: SMTP, 217: POP3, 218: IMAP, 219: LDAP, 220: RDP, 221: VNC, 222: SSH, 223: Telnet, 224: HTTP, 225: HTTPS, 226: FTP, 227: SFTP, 228: NFS, 229: NTP, 230: SMTP, 231: POP3, 232: IMAP, 233: LDAP, 234: RDP, 235: VNC, 236: SSH, 237: Telnet, 238: HTTP, 239: HTTPS, 240: FTP, 241: SFTP, 242: NFS, 243: NTP, 244: SMTP, 245: POP3, 246: IMAP, 247: LDAP, 248: RDP, 249: VNC, 250: SSH, 251: Telnet, 252: HTTP, 253: HTTPS, 254: FTP, 255: SFTP, 256: NFS, 257: NTP, 258: SMTP, 259: POP3, 260: IMAP, 261: LDAP, 262: RDP, 263: VNC, 264: SSH, 265: Telnet, 266: HTTP, 267: HTTPS, 268: FTP, 269: SFTP, 270: NFS, 271: NTP, 272: SMTP, 273: POP3, 274: IMAP, 275: LDAP, 276: RDP, 277: VNC, 278: SSH, 279: Telnet, 280: HTTP, 281: HTTPS, 282: FTP, 283: SFTP, 284: NFS, 285: NTP, 286: SMTP, 287: POP3, 288: IMAP, 289: LDAP, 290: RDP, 291: VNC, 292: SSH, 293: Telnet, 294: HTTP, 295: HTTPS, 296: FTP, 297: SFTP, 298: NFS, 299: NTP, 300: SMTP, 301: POP3, 302: IMAP, 303: LDAP, 304: RDP, 305: VNC, 306: SSH, 307: Telnet, 308: HTTP, 309: HTTPS, 310: FTP, 311: SFTP, 312: NFS, 313: NTP, 314: SMTP, 315: POP3, 316: IMAP, 317: LDAP, 318: RDP, 319: VNC, 320: SSH, 321: Telnet, 322: HTTP, 323: HTTPS, 324: FTP, 325: SFTP, 326: NFS, 327: NTP, 328: SMTP, 329: POP3, 330: IMAP, 331: LDAP, 332: RDP, 333: VNC, 334: SSH, 335: Telnet, 336: HTTP, 337: HTTPS, 338: FTP, 339: SFTP, 340: NFS, 341: NTP, 342: SMTP, 343: POP3, 344: IMAP, 345: LDAP, 346: RDP, 347: VNC, 348: SSH, 349: Telnet, 350: HTTP, 351: HTTPS, 352: FTP, 353: SFTP, 354: NFS, 355: NTP, 356: SMTP, 357: POP3, 358: IMAP, 359: LDAP, 360: RDP, 361: VNC, 362: SSH, 363: Telnet, 364: HTTP, 365: HTTPS, 366: FTP, 367: SFTP, 368: NFS, 369: NTP, 370: SMTP, 371: POP3, 372: IMAP, 373: LDAP, 374: RDP, 375: VNC, 376: SSH, 377: Telnet, 378: HTTP, 379: HTTPS, 380: FTP, 381: SFTP, 382: NFS, 383: NTP, 384: SMTP, 385: POP3, 386: IMAP, 387: LDAP, 388: RDP, 389: VNC, 390: SSH, 391: Telnet, 392: HTTP, 393: HTTPS, 394: FTP, 395: SFTP, 396: NFS, 397: NTP, 398: SMTP, 399: POP3, 400: IMAP, 401: LDAP, 402: RDP, 403: VNC, 404: SSH, 405: Telnet, 406: HTTP, 407: HTTPS, 408: FTP, 409: SFTP, 410: NFS, 411: NTP, 412: SMTP, 413: POP3, 414: IMAP, 415: LDAP, 416: RDP, 417: VNC, 418: SSH, 419: Telnet, 420: HTTP, 421: HTTPS, 422: FTP, 423: SFTP, 424: NFS, 425: NTP, 426: SMTP, 427: POP3, 428: IMAP, 429: LDAP, 430: RDP, 431: VNC, 432: SSH, 433: Telnet, 434: HTTP, 435: HTTPS, 436: FTP, 437: SFTP, 438: NFS, 439: NTP, 440: SMTP, 441: POP3, 442: IMAP, 443: LDAP, 444: RDP, 445: VNC, 446: SSH, 447: Telnet, 448: HTTP, 449: HTTPS, 450: FTP, 451: SFTP, 452: NFS, 453: NTP, 454: SMTP, 455: POP3, 456: IMAP, 457: LDAP, 458: RDP, 459: VNC, 460: SSH, 461: Telnet, 462: HTTP, 463: HTTPS, 464: FTP, 465: SFTP, 466: NFS, 467: NTP, 468: SMTP, 469: POP3, 470: IMAP, 471: LDAP, 472: RDP, 473: VNC, 474: SSH, 475: Telnet, 476: HTTP, 477: HTTPS, 478: FTP, 479: SFTP, 480: NFS, 481: NTP, 482: SMTP, 483: POP3, 484: IMAP, 485: LDAP, 486: RDP, 487: VNC, 488: SSH, 489: Telnet, 490: HTTP, 491: HTTPS, 492: FTP, 493: SFTP, 494: NFS, 495: NTP, 496: SMTP, 497: POP3, 498: IMAP, 499: LDAP, 500: RDP, 501: VNC, 502: SSH, 503: Telnet, 504: HTTP, 505: HTTPS, 506: FTP, 507: SFTP, 508: NFS, 509: NTP, 510: SMTP, 511: POP3, 512: IMAP, 513: LDAP, 514: RDP, 515: VNC, 516: SSH, 517: Telnet, 518: HTTP, 519: HTTPS, 520: FTP, 521: SFTP, 522: NFS, 523: NTP, 524: SMTP, 525: POP3, 526: IMAP, 527: LDAP, 528: RDP, 529: VNC, 530: SSH, 531: Telnet, 532: HTTP, 533: HTTPS, 534: FTP, 535: SFTP, 536: NFS, 537: NTP, 538: SMTP, 539: POP3, 540: IMAP, 541: LDAP, 542: RDP, 543: VNC, 544: SSH, 545: Telnet, 546: HTTP, 547: HTTPS, 548: FTP, 549: SFTP, 550: NFS, 551: NTP, 552: SMTP, 553: POP3, 554: IMAP, 555: LDAP, 556: RDP, 557: VNC, 558: SSH, 559: Telnet, 560: HTTP, 561: HTTPS, 562: FTP, 563: SFTP, 564: NFS, 565: NTP, 566: SMTP, 567: POP3, 568: IMAP, 569: LDAP, 570: RDP, 571: VNC, 572: SSH, 573: Telnet, 574: HTTP, 575: HTTPS, 576: FTP, 577: SFTP, 578: NFS, 579: NTP, 580: SMTP, 581: POP3, 582: IMAP, 583: LDAP, 584: RDP, 585: VNC, 586: SSH, 587: Telnet, 588: HTTP, 589: HTTPS, 590: FTP, 591: SFTP, 592: NFS, 593: NTP, 594: SMTP, 595: POP3, 596: IMAP, 597: LDAP, 598: RDP, 599: VNC, 600: SSH, 601: Telnet, 602: HTTP, 603: HTTPS, 604: FTP, 605: SFTP, 606: NFS, 607: NTP, 608: SMTP, 609: POP3, 610: IMAP, 611: LDAP, 612: RDP, 613: VNC, 614: SSH, 615: Telnet, 616: HTTP, 617: HTTPS, 618: FTP, 619: SFTP, 620: NFS, 621: NTP, 622: SMTP, 623: POP3, 624: IMAP, 625: LDAP, 626: RDP, 627: VNC, 628: SSH, 629: Telnet, 630: HTTP, 631: HTTPS, 632: FTP, 633: SFTP, 634: NFS, 635: NTP, 636: SMTP, 637: POP3, 638: IMAP, 639: LDAP, 640: RDP, 641: VNC, 642: SSH, 643: Telnet, 644: HTTP, 645: HTTPS, 646: FTP, 647: SFTP, 648: NFS, 649: NTP, 650: SMTP, 651: POP3, 652: IMAP, 653: LDAP, 654: RDP, 655: VNC, 656: SSH, 657: Telnet, 658: HTTP, 659: HTTPS, 660: FTP, 661: SFTP, 662: NFS, 663: NTP, 664: SMTP, 665: POP3, 666: IMAP, 667: LDAP, 668: RDP, 669: VNC, 670: SSH, 671: Telnet, 672: HTTP, 673: HTTPS, 674: FTP, 675: SFTP, 676: NFS, 677: NTP, 678: SMTP, 679: POP3, 680: IMAP, 681: LDAP, 682: RDP, 683: VNC, 684: SSH, 685: Telnet, 686: HTTP, 687: HTTPS, 688: FTP, 689: SFTP, 690: NFS, 691: NTP, 692: SMTP, 693: POP3, 694: IMAP, 695: LDAP, 696: RDP, 697: VNC, 698: SSH, 699: Telnet, 700: HTTP, 701: HTTPS, 702: FTP, 703: SFTP, 704: NFS, 705: NTP, 706: SMTP, 707: POP3, 708: IMAP, 709: LDAP, 710: RDP, 711: VNC, 712: SSH, 713: Telnet, 714: HTTP, 715: HTTPS, 716: FTP, 717: SFTP, 718: NFS, 719: NTP, 720: SMTP, 721: POP3, 722: IMAP, 723: LDAP, 724: RDP, 725: VNC, 726: SSH, 727: Telnet, 728: HTTP, 729: HTTPS, 730: FTP, 731: SFTP, 732: NFS, 733: NTP, 734: SMTP, 735: POP3, 736: IMAP, 737: LDAP, 738: RDP, 739: VNC, 740: SSH, 741: Telnet, 742: HTTP, 743: HTTPS, 744: FTP, 745: SFTP, 746: NFS, 747: NTP, 748: SMTP, 749: POP3, 750: IMAP, 751: LDAP, 752: RDP, 753: VNC, 754: SSH, 755: Telnet, 756: HTTP, 757: HTTPS, 758: FTP, 759: SFTP, 760: NFS, 761: NTP, 762: SMTP, 763: POP3, 764: IMAP, 765: LDAP, 766: RDP, 767: VNC, 768: SSH, 769: Telnet, 770: HTTP, 771: HTTPS, 772: FTP, 773: SFTP, 774: NFS, 775: NTP, 776: SMTP, 777: POP3, 778: IMAP, 779: LDAP, 780: RDP, 781: VNC, 782: SSH, 783: Telnet, 784: HTTP, 785: HTTPS, 786: FTP, 787: SFTP, 788: NFS, 789: NTP, 790: SMTP, 791: POP3, 792: IMAP, 793: LDAP, 794: RDP, 795: VNC, 796: SSH, 797: Telnet, 798: HTTP, 799: HTTPS, 800: FTP, 801: SFTP, 802: NFS, 803: NTP, 804: SMTP, 805: POP3, 806: IMAP, 807: LDAP, 808: RDP, 809: VNC, 810: SSH, 811: Telnet, 812: HTTP, 813: HTTPS, 814: FTP, 815: SFTP, 816: NFS, 817: NTP, 818: SMTP, 819: POP3, 820: IMAP, 821: LDAP, 822: RDP, 823: VNC, 824: SSH, 825: Telnet, 826: HTTP, 827: HTTPS, 828: FTP, 829: SFTP, 830: NFS, 831: NTP, 832: SMTP, 833: POP3, 834: IMAP, 835: LDAP, 836: RDP, 837: VNC, 838: SSH, 839: Telnet, 840: HTTP, 841: HTTPS, 842: FTP, 843: SFTP, 844: NFS, 845: NTP, 846: SMTP, 847: POP3, 848: IMAP, 849: LDAP, 850: RDP, 851: VNC, 852: SSH, 853: Telnet, 854: HTTP, 855: HTTPS, 856: FTP, 857: SFTP, 858: NFS, 859: NTP, 860: SMTP, 861: POP3, 862: IMAP, 863: LDAP, 864: RDP, 865: VNC, 866: SSH, 867: Telnet, 868: HTTP, 869: HTTPS, 870: FTP, 871: SFTP, 872: NFS, 873: NTP, 874: SMTP, 875: POP3, 876: IMAP, 877: LDAP, 878: RDP, 879: VNC, 880: SSH, 881: Telnet, 882: HTTP, 883: HTTPS, 884: FTP, 885: SFTP, 886: NFS, 887: NTP, 888: SMTP, 889: POP3, 890: IMAP, 891: LDAP, 892: RDP, 893: VNC, 894: SSH, 895: Telnet, 896: HTTP, 897: HTTPS, 898: FTP, 899: SFTP, 900: NFS, 901: NTP, 902: SMTP, 903: POP3, 904: IMAP, 905: LDAP, 906: RDP, 907: VNC, 908: SSH, 909: Telnet, 910: HTTP, 911: HTTPS, 912: FTP, 913: SFTP, 914: NFS, 915: NTP, 916: SMTP, 917: POP3, 918: IMAP, 919: LDAP, 920: RDP, 921: VNC, 922: SSH, 923: Telnet, 924: HTTP, 925: HTTPS, 926: FTP, 927: SFTP, 928: NFS, 929: NTP, 930: SMTP, 931: POP3, 932: IMAP, 933: LDAP, 934: RDP, 935: VNC, 936: SSH, 937: Telnet, 938: HTTP, 939: HTTPS, 940: FTP, 941: SFTP, 942: NFS, 943: NTP, 944: SMTP, 945: POP3, 946: IMAP, 947: LDAP, 948: RDP, 949: VNC, 950: SSH, 951: Telnet, 952: HTTP, 953: HTTPS, 954: FTP, 955: SFTP, 956: NFS, 957: NTP, 958: SMTP, 959: POP3, 960: IMAP, 961: LDAP, 962: RDP, 963: VNC, 964: SSH, 965: Telnet, 966: HTTP, 967: HTTPS, 968: FTP, 969: SFTP, 970: NFS, 971: NTP, 972: SMTP, 973: POP3, 974: IMAP, 975: LDAP, 976: RDP, 977: VNC, 978: SSH, 979: Telnet, 980: HTTP, 981: HTTPS, 982: FTP, 983: SFTP, 984: NFS, 985: NTP, 986: SMTP, 987: POP3, 988: IMAP, 989: LDAP, 990: RDP, 991: VNC, 992: SSH, 993: Telnet, 994: HTTP, 995: HTTPS, 996: FTP, 997: SFTP, 998: NFS, 999: NTP, 1000: SMTP, 1001: POP3, 1002: IMAP, 1003: LDAP, 1004: RDP, 1005: VNC, 1006: SSH, 1007: Telnet, 1008: HTTP, 1009: HTTPS, 1010: FTP, 1011: SFTP, 1012: NFS, 1013: NTP, 1014: SMTP, 1015: POP3, 1016: IMAP, 1017: LDAP, 1018: RDP, 1019: VNC, 1020: SSH, 1021: Telnet, 1022: HTTP, 1023: HTTPS, 1024: FTP, 1025: SFTP, 1026: NFS, 1027: NTP, 1028: SMTP, 1029: POP3, 1030: IMAP, 1031: LDAP, 1032: RDP, 1033: VNC, 1034: SSH, 1035: Telnet, 1036: HTTP, 1037: HTTPS, 1038: FTP, 1039: SFTP, 1040: NFS, 1041: NTP, 1042: SMTP, 1043: POP3, 1044: IMAP, 1045: LDAP, 1046: RDP, 1047: VNC, 1048: SSH, 1049: Telnet, 1050: HTTP, 1051: HTTPS, 1052: FTP, 1053: SFTP, 1054: NFS, 1055: NTP, 1056: SMTP, 1057: POP3, 1058: IMAP, 1059: LDAP, 1060: RDP, 1061: VNC, 1062: SSH, 1063: Telnet, 1064: HTTP, 1065: HTTPS, 1066: FTP, 1067: SFTP, 1068: NFS, 1069: NTP, 1070: SMTP, 1071: POP3, 1072: IMAP, 1073: LDAP, 1074: RDP, 1075: VNC, 1076: SSH, 1077: Telnet, 1078: HTTP, 1079: HTTPS, 1080: FTP, 1081: SFTP, 1082: NFS, 1083: NTP, 1084: SMTP, 1085: POP3, 1086: IMAP, 1087: LDAP, 1088: RDP, 1089: VNC, 1090: SSH, 1091: Telnet, 1092: HTTP, 1093: HTTPS, 1094: FTP, 1095: SFTP, 1096: NFS, 1097: NTP, 1098: SMTP, 1099: POP3, 1100: IMAP, 1101: LDAP, 1102: RDP, 1103: VNC, 1104: SSH, 1105: Telnet, 1106: HTTP, 1107: HTTPS, 1108: FTP, 1109: SFTP, 1110: NFS, 1111: NTP, 1112: SMTP, 1113: POP3, 1114: IMAP, 1115: LDAP, 1116: RDP, 1117: VNC, 1118: SSH, 1119: Telnet, 1120: HTTP, 1121: HTTPS, 1122: FTP, 1123: SFTP, 1124: NFS, 1125: NTP, 1126: SMTP, 1127: POP3, 1128: IMAP, 1129: LDAP, 1130: RDP, 1131: VNC, 1132: SSH, 1133: Telnet, 1134: HTTP, 1135: HTTPS, 1136: FTP, 1137: SFTP, 1138: NFS, 1139: NTP, 1140: SMTP, 1141: POP3, 1142: IMAP, 1143: LDAP, 1144: RDP, 1145: VNC, 1146: SSH, 1147: Telnet, 1148: HTTP, 1149: HTTPS, 1150: FTP, 1151: SFTP, 1152: NFS, 1153: NTP, 1154: SMTP, 1155: POP3, 1156: IMAP, 1157: LDAP, 1158: RDP, 1159: VNC, 1160: SSH, 1161: Telnet, 1162: HTTP, 1163: HTTPS, 1164: FTP, 1165: SFTP, 1166: NFS, 1167: NTP, 1168: SMTP, 1169: POP3, 1170: IMAP, 1171: LDAP, 1172: RDP, 1173: VNC, 1174: SSH, 1175: Telnet, 1176: HTTP, 1177: HTTPS, 1178: FTP, 1179: SFTP, 1180: NFS, 1181: NTP, 1182: SMTP, 1183: POP3, 1184: IMAP, 1185: LDAP, 1186: RDP, 1187: VNC, 1188: SSH, 1189: Telnet, 1190: HTTP, 1191: HTTPS, 1192: FTP, 1193: SFTP, 1194: NFS, 1195: NTP, 1196: SMTP, 1197: POP3, 1198: IMAP, 1199: LDAP, 1200: RDP, 1201: VNC, 1202: SSH, 1203: Telnet, 1204: HTTP, 1205: HTTPS, 1206: FTP, 1207: SFTP, 1208: NFS, 1209: NTP, 1210: SMTP, 1211: POP3, 1212: IMAP, 1213: LDAP, 1214: RDP, 1215: VNC, 1216: SSH, 1217: Telnet, 1218: HTTP, 1219: HTTPS, 1220: FTP, 1221: SFTP, 1222: NFS, 1223: NTP, 1224: SMTP, 1225: POP3, 1226: IMAP, 1227: LDAP, 1228: RDP, 1229: VNC, 1230: SSH, 1231: Telnet, 1232: HTTP, 1233: HTTPS, 1234: FTP, 1235: SFTP, 1236: NFS, 1237: NTP, 1238: SMTP, 1239: POP3, 1240: IMAP, 1241: LDAP, 1242: RDP, 1243: VNC, 1244: SSH, 1245: Telnet, 1246: HTTP, 1247: HTTPS, 1248: FTP, 1249: SFTP, 1250: NFS, 1251: NTP, 1252: SMTP, 1253: POP3, 1254: IMAP, 1255: LDAP, 1256: RDP, 1257: VNC, 1258: SSH, 1259: Telnet, 1260: HTTP, 1261: HTTPS, 1262: FTP, 1263: SFTP, 1264: NFS, 1265: NTP, 1266: SMTP, 1267: POP3, 1268: IMAP, 1269: LDAP, 1270: RDP, 1271: VNC, 1272: SSH, 1273: Telnet, 1274: HTTP, 1275: HTTPS, 1276: FTP, 1277: SFTP, 1278: NFS, 1279: NTP, 1280: SMTP, 1281: POP3, 1282: IMAP, 1283: LDAP, 1284: RDP, 1285: VNC, 1286: SSH, 1287: Telnet, 1288: HTTP, 1289: HTTPS, 1290: FTP, 1291: SFTP, 1292: NFS, 1293: NTP, 1294: SMTP, 1295: POP3, 1296: IMAP, 1297: LDAP, 1298: RDP, 1299: VNC, 1300: SSH, 1301: Telnet, 1302: HTTP, 1303: HTTPS, 1304: FTP, 1305: SFTP, 1306: NFS, 1307: NTP, 1308: SMTP, 1309: POP3, 1310: IMAP, 1311: LDAP, 1312: RDP, 1313: VNC, 1314: SSH, 1315: Telnet, 1316: HTTP, 1317: HTTPS, 1318: FTP, 1319: SFTP, 1320: NFS, 1321: NTP, 1322: SMTP, 1323: POP3, 1324: IMAP, 1325: LDAP, 1326: RDP, 1327: VNC, 1328: SSH, 1329: Telnet, 1330: HTTP, 1331: HTTPS, 1332: FTP, 1333: SFTP, 1334: NFS, 1335: NTP, 1336: SMTP, 1337: POP3, 1338: IMAP, 1339: LDAP, 1340: RDP, 1341: VNC, 1342: SSH, 1343: Telnet, 1344: HTTP, 1345: HTTPS, 1346: FTP, 1347: SFTP, 1348: NFS, 1349: NTP, 1350: SMTP, 1351: POP3, 1352: IMAP, 1353: LDAP, 1354: RDP, 1355: VNC, 1356: SSH, 1357: Telnet, 1358: HTTP, 1359: HTTPS, 1360: FTP, 1361: SFTP, 1362: NFS, 1363: NTP, 1364: SMTP, 1365: POP3, 1366: IMAP, 1367: LDAP, 1368: RDP, 1369: VNC, 1370: SSH, 1371: Telnet, 1372: HTTP, 1373: HTTPS, 1374: FTP, 1375: SFTP, 1376: NFS, 1377: NTP, 1378: SMTP, 1379: POP3, 1380: IMAP, 1381: LDAP, 1382: RDP, 1383: VNC, 1384: SSH, 1385: Telnet, 1386: HTTP, 1387: HTTPS, 1388: FTP, 1389: SFTP, 1390: NFS, 1391: NTP, 1392: SMTP, 1393: POP3, 1394: IMAP, 1395: LDAP, 1396: RDP, 1397: VNC, 1398: SSH, 1399: Telnet, 1400: HTTP, 1401: HTTPS, 1402: FTP, 1403: SFTP, 1404: NFS, 1405: NTP, 1406: SMTP, 1407: POP3, 1408: IMAP, 1409: LDAP, 1410: RDP, 1411: VNC, 1412: SSH, 1413: Telnet, 1414: HTTP, 1415: HTTPS, 1416: FTP, 1417: SFTP, 1418: NFS, 1419: NTP, 1420: SMTP, 1421: POP3, 1422: IMAP, 1423: LDAP, 1424: RDP, 1425: VNC, 1426: SSH, 1427: Telnet, 1428: HTTP, 1429: HTTPS, 1430: FTP, 1431: SFTP, 1432: NFS, 1433: NTP, 1434: SMTP, 1435: POP3, 1436: IMAP, 1437: LDAP, 1438: RDP, 1439: VNC, 1440: SSH, 1441: Telnet, 1442: HTTP, 1443: HTTPS, 1444: FTP, 1445: SFTP, 1446: NFS, 1447: NTP, 1448: SMTP, 1449: POP3, 1450: IMAP, 1451: LDAP, 1452: RDP, 1453: VNC, 1454: SSH, 1455: Telnet, 1456: HTTP, 1457: HTTPS, 1458: FTP, 1459: SFTP, 1460: NFS, 1461: NTP, 1462: SMTP, 1463: POP3, 1464: IMAP, 1465: LDAP, 1466: RDP, 1467: VNC, 1468: SSH, 1469: Telnet, 1470: HTTP, 1471: HTTPS, 1472: FTP, 1473: SFTP, 1474: NFS, 1475: NTP, 1476: SMTP, 1477: POP3, 1478: IMAP, 1479: LDAP, 1480: RDP, 1481: VNC, 1482: SSH, 1483: Telnet, 1484: HTTP, 1485: HTTPS, 1486: FTP, 1487: SFTP, 1488: NFS, 1489: NTP, 1490: SMTP, 1491: POP3, 1492: IMAP, 1493: LDAP, 1494: RDP, 1495: VNC, 1496: SSH, 1497: Telnet, 1498: HTTP, 1499: HTTPS, 1500: FTP, 1501: SFTP, 1502: NFS, 1503: NTP, 1504: SMTP, 1505: POP3, 1506: IMAP, 1507: LDAP, 1508: RDP, 1509: VNC, 1510: SSH, 1511: Telnet, 1512: HTTP, 1513: HTTPS, 1514: FTP, 1515: SFTP, 1516: NFS, 1517: NTP, 1518: SMTP, 1519: POP3, 1520: IMAP, 1521: LDAP, 1522: RDP, 1523: VNC, 1524: SSH, 1525: Telnet, 1526: HTTP, 1527: HTTPS, 1528: FTP, 1529: SFTP, 1530: NFS, 1531: NTP, 1532: SMTP, 1533: POP3, 1534:

1. *field*クライアントモジュール配信機能

[illegible]

配信履歴の確認が可能です

ソート

シート カラムの指定

1) データ項目をクリックし、ドラッグします
 2) データを編集するには、ドラッグした項目をクリックします

データ項目 (ソース)	列名
dis_gets_no	
dis_copy_of	
dis_result	

OK キャンセル

保存

名前を付けて保存

保存する場所: 新しいフォルダ

ファイル名:

ファイルの種類: テキスト(ヘッダ付き)

エンコーディング: ANSI/DBCS

保存

キャンセル

TOOL

1. fieldクライアントモジュール配信機能

SuperStream-CORE

【field起動】

field起動 自動配信

ログイン画面

メニュー表示

Bs_app.exe



配信元フォルダと配信先フォルダのファイルをチェックし、許容誤差を超えたファイルのコピーが行われます

Bs-login.exe

配信ファイルがある時

```
配信実行日時: 2013/06/03 15:00:00
配信元フォルダ: Z:\field\client
配信先フォルダ: C:\field\20130630
■ 配信ファイル:
-----
bs01kink.pbd 2013/04/15 11:31
bs01knin.pbd 2013/04/15 11:31
bs01koza.pbd 2013/04/15 11:31
bs01mngn.pbd 2013/04/15 11:31
bs01mnst.pbd 2013/04/15 11:31
bs01ryhi.pbd 2013/04/15 11:31
bs01shch.pbd 2013/04/15 11:31
bs01shks.pbd 2013/04/15 11:31
bs01srsh.pbd 2013/04/15 11:31
bs01sysc.pbd 2013/04/15 11:31
```

配信ファイルがない時

```
配信実行日時: 2013/06/03 16:48:56
配信元フォルダ: Z:\field\client
配信先フォルダ: C:\field\20130630
■ 配信ファイル:
-----
配信元とタイムスタンプの異なるファイルはありません。配信は行われませんでした。
■ 配信ファイル数: 0
End Log.
```

ログもV2同様に出力されます

TOOL

2. ログの自動削除機能



■ 機能追加背景

運用を重ねるとログが蓄積され、表領域やHDD容量を圧迫しますが、古いログを削除するためにはLogManagerの「簡易削除」より手動で削除する必要がありました。

■ 機能内容

指定期間以前のログを自動的に削除する機能を追加しました。
ログ管理ツール(LogManager)にてログ自動削除の設定を行い、ログの自動削除は、
ログ移動プログラム(LogAccumulator)にてスケジュール設定登録後、タスク処理で実行します。

■ メリット・効果

古いログを自動で削除することにより、DB容量を確保することが可能となります。

■ 対応プログラム

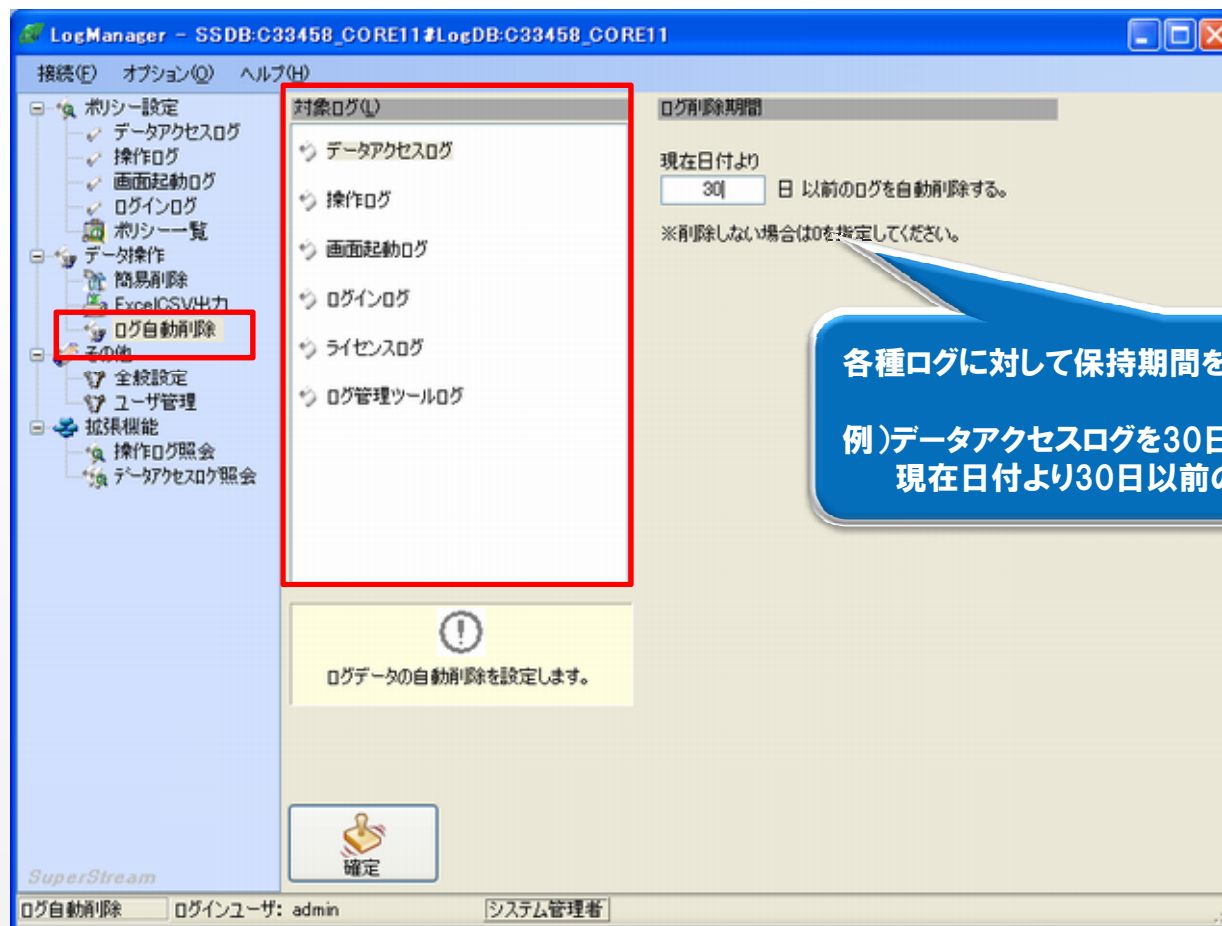
- Logmanager
- LogAccumulator

TOOL

2. ログの自動削除機能

SuperStream-CORE

【LogManager設定】



各種ログに対して保持期間を設定します

例)データアクセスログを30日と設定した場合、
現在日付より30日以前のログが削除対象になります

TOOL

2. ログの自動削除機能

SuperStream-CORE

【LogAccumulator設定】

LogAccumulator 設定

ログ移動タイミング

曜日
☒ 月 ☒ 火 ☒ 水 ☒ 木 ☒ 金 ☒ 土 ☒ 日

時間 未設定 00:00

ログ削除タイミング

曜日
☒ 月 ☒ 火 ☒ 水 ☒ 木 ☒ 金 ☒ 土 ☒ 日

時間 未設定 00:00

SuperStreamインスタンス情報

☐ field分散入力 LOGDB接続先 UNDOTEST

接続文字列 C33458_CORE11 接続確認 OK

実行ログ出力先

C:\Program Files\SuperStream\LogAccumulator設定ツール\LogAccu 参照...

DBサーバディスク空き容量アラート設定

15 % 以下でアラートメールを送信する

監視先1(SSインスタンスサーバ)

サーバ名: ユーザ名: パスワード: 監視ドライブ: C

監視先2(ログサーバ)

サーバ名: ユーザ名: パスワード: 監視ドライブ: C

メール設定 ☐ メール送信をしない

送信先

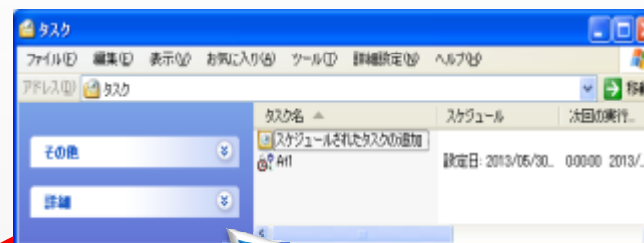
接続設定

SMTPサーバ SMTP認証設定... SMTPポート番号 テストメール送信 POP Before SMTP設定...

Version:1.3.4860.25691

閉じる OK

[ログ削除タイミング]の時間と曜日を設定して登録すると、タスクスケジューラにタスクが登録されます



タスクが実行されると、LogManagerで設定した、保存期間以前のログが削除されます

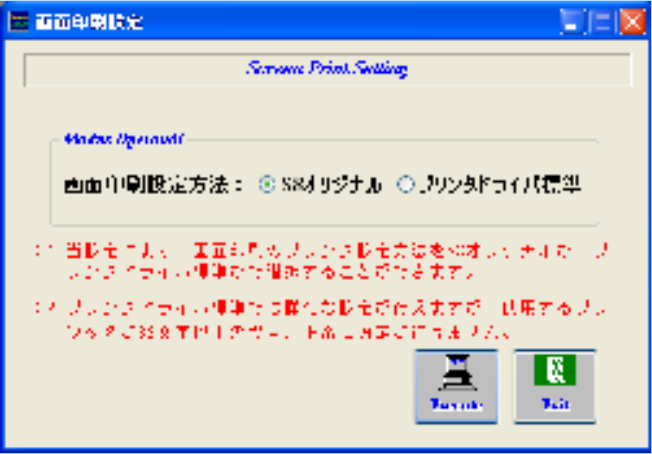
※ログ格納用DB(LOGDB)が設定されている場合は、LOGDBのログを削除し、LOGDBが設定されていない場合は、SuperStreamDB(SSDB)のログを削除します。

TOOL

3. その他

SuperStream-CORE

■ その他新規追加・改善機能

改修箇所	改修内容
画面印刷のプリンタ設定対応	[StreamVision] に [画面印刷管理] 画面を追加し、[画面印刷] のプリンタ設定画面について、SP20120630版の設定画面と、プリンタドライバの設定画面 (SP20110731以前の仕様) のどちらを使用するか切り替えられるように対応しました。 <SSオリジナル> ・プリンタ名が32文字以上でも「印刷の向き」を横に変更できます。 ・印刷のオプションは、一般的に利用する用紙サイズ・部数・「印刷の向き」に限定しています。 <プリンタドライバ標準> ・プリンタ名が32文字以上の場合、「印刷の向き」が縦で印刷されます。 



● Windows XP／Office 2003／Internet Explorer 6のサポートについて

*SuperStream-CORE*シリーズ製品は、日本マイクロソフト株式会社のサポート終了に伴い、2014年4月9日をもって、Windows XP／Office 2003／Internet Explorer 6環境における運用についてサポート対象外とさせていただきます。

※ご参考(日本マイクロソフト社のサポート終了に関するURL)

http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/lifecycle/xp_eos.aspx

2014年4月9日のサポート終了以降、*SuperStream-CORE*シリーズでご提供するプログラムは当環境における動作検証を実施しません。

また、Windows XP／Office 2003／Internet Explorer 6に依存すると思われる事象については対応できませんのでご了承ください。

*SuperStream-CORE*シリーズのWindows8／WindowsServer2012対応は、Oracle社が正式に対応を発表次第、すみやかに対応する予定です。

● WebSphere Application Serverに関するサポートについて

WebSphere Application Server(以後 WebSphere と表記) V6.1は、2013年9月30日をもって日本アイ・ビー・エム株式会社のサポートが終了します。

SuperStream-field につきましても、日本アイ・ビー・エム株式会社のWebSphere V6.1のサポート終了に伴い、SP20130630版(2013年7月1日出荷予定)をもって当環境における運用についてサポート対象外とさせていただきます。

SP20130630版までのバージョンにつきましてはサポートを致しますが、日本アイ・ビー・エム株式会社のサポート終了以降は、WebSphereに起因すると思われる事象についてはご回答できませんのでご了承ください。



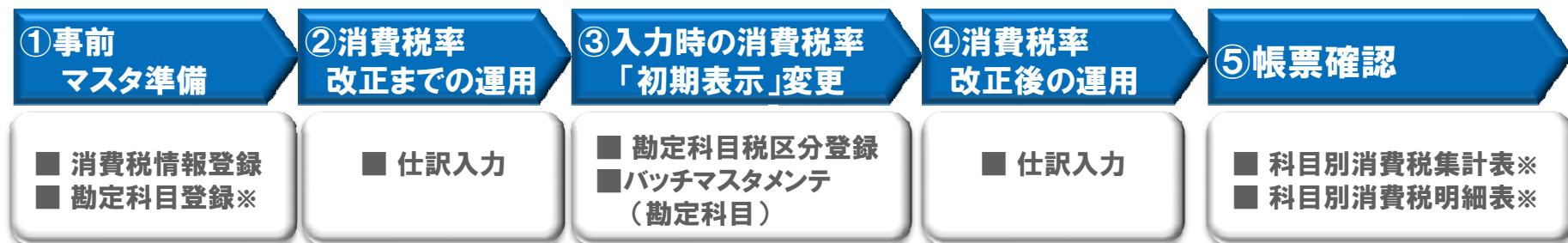
参考資料

*SuperStream-CORE*シリーズの消費税増税対応

■ SuperStream-COREシリーズの消費税増税対応

消費税増税を柱とする一体改革関連法により、2014年4月に8%、2015年10月には10%へとなる見通しですが、SuperStream-COREシリーズでは、どのように対応する必要があるのかまとめましたので、参考までにご覧ください。

■ 手順



①事前マスタ準備（消費税情報登録 他）

「消費税情報登録」で課税仕入等に係る消費税について、税処理コードを登録します。

※税処理コードに対応する消費税科目は必要に応じて分けることも可能です。

②消費税率改正までの運用（仕訳入力）

消費税率が改正されるまでの間は、既存の消費税率にて運用を行います。

③入力時の消費税率初期表示変更（勘定科目税区分登録他）

「勘定科目税区分登録」にて、「仕訳入力」時に初期表示される消費税情報を変更します。

④消費税率改正後の運用（仕訳入力）

「③」で変更された改正後の消費税率にて、「仕訳入力」を行います。

⑤帳票確認（科目別消費税集計表 他）

「科目別消費税集計表」、「科目別消費税明細表」にて各税コードに対する金額を確認します。

■ ①事前マスタ準備

【消費税情報登録】

予め新しい消費税率をマスタに登録しておくことができます。

消費税情報登録

ファイル(F) 編集(E) メニュー(M) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

税処理

☐ 0 : 非課税 ☒ 1 : 課税

コード

税処理名称

税率

端数

端数単位

科目指定

科目コード

補助コード

有効期間 ~

税区分	コード	税処理名称	税率	端数処理	端数単位	科目コード	科目名	補助コード	補助科目名	開始日	終了日
非課税	00	対象外	0.00	四捨五入	円未満					1900/01/01	2999/12/31
非課税	01	非課税売上高	0.00	四捨五入	円未満					1900/01/01	2999/12/31
非課税	05	非課税仕入	0.00	四捨五入	円未満					1900/01/01	2999/12/31
非課税	21	免税売上高	0.00	四捨五入	円未満					1900/01/01	2999/12/31
課税	11	課税売上高(5%)	5.00	四捨五入	円未満	31710	仮受消費税			1900/01/01	2014/03/30
課税	15	課税仕入高(5%)	5.00	四捨五入	円未満	17610	仮払消費税			1900/01/01	2014/03/30
課税	21	課税売上高(8%)	8.00	四捨五入	円未満	31710	仮受消費税			2014/04/01	2999/12/31
課税	25	課税仕入高(8%)	8.00	四捨五入	円未満	17610	仮払消費税			2014/04/01	2999/12/31

新しい消費税コード
について設定

旧消費税率の経過措置が生じた
場合も、期間を重複して
新旧消費税コードの登録が可能

新消費税率コード

【参考資料】SuperStream-COREシリーズの消費税増税対応

■ ②消費税率改正までの運用

【仕訳入力】

消費税率が改正される日までは、従来通り【仕訳入力】などの入力画面より旧税率にて伝票を入力してください。

科目(借)	補助(借)	部門(借)	金額(借)	税額(借)	科目(貸)	補助(貸)	部門(貸)	金額(貸)	税額(貸)
商品売上高		本-総)経理課	95,238	4,762	商品売上高		本-宮)国内	95,238	4,762

税抜/税額 95,238
借方合計 100,000

【消費税情報登録】画面では新しい消費税コードを登録してありますが、伝票日付より、**5%のみ**表示されます。

新しい税処理コード(8%)は、有効期間範囲外の為、表示されません。

税処理の初期値は「伝票日付」「科目」より…
【勘定科目税区分登録】で設定されている消費税コードが初期表示されます。

■ ③伝票入力時に初期表示される税処理コードの変更

1. [仕訳入力]で初期表示される消費税コードを新消費税率に変更します。
初期表示される消費税コードは「科目別に1コード」しか設定できないため、
この変更は、**消費税率改正日前日の会計業務終了後**に行うことが望ましいです。
2. 変更の方法としては、次の2つの方法があります。
 - ①【勘定科目税区分登録】メニューより、1科目ずつ修正を行う。
 - ②「勘定科目マスタ」をバッチで取り込むためのファイルを作成し
【バッチマスタ登録】メニューで一括で取込む。

【参考資料】SuperStream-COREシリーズの消費税増税対応

■ ③伝票入力時に初期表示される税処理コードの変更

【勘定科目税区分登録】

画面から勘定科目に紐づいている消費税コードを変更します。

科目コード	科目名	税処理コード	税処理名	税処
40110	売上高(非課税)	001	非課税売上高	
40200	商品売上高	121	課税売上高(8%)	
40210	商品売上高(非課税)	001	非課税売上高	
40300	製品売上高	121	課税売上高(8%)	
40310	製品売上高(非課税)	001	非課税売上高	
40400	商品売上高(外貨)	121	課税売上高(8%)	
40999	商品売上高(支店)	121	課税売上高(8%)	
43100	期首商品棚卸高	000	対象外	
43111	期首商品棚卸高	000	対象外	
43300	商品仕入高	125	課税仕入高(8%)	1
43310	商品仕入高(非課税)	005	非課税仕入	0
43400	商品仕入高(外貨)	125	課税仕入高(8%)	1
43999	商品仕入高(本店)	125	課税仕入高(8%)	1
45100	期末商品棚卸高	000	対象外	0
46100	期首製品棚卸高	000	対象外	0
47100	期首材料棚卸高	000	対象外	0
47111	期首材料棚卸高	000	対象外	0
48100	原材料仕入高	125	課税仕入高(8%)	1
50200	期末原材料棚卸高	000	対象外	0
52100	直接資金	000	対象外	0
57700	保険料	000	対象外	0
57820	電力費	125	課税仕入高(8%)	1

【勘定科目税区分登録】では、

- ・「処理日付」で有効な税処理コードを持つ科目のみを表示しています。
- ・科目が表示されなかった場合は
処理日を変更して、科目が表示されるように
日付を変更してから処理を行ってください。

各科目毎に
税処理コードを
変更します。

【参考資料】SuperStream-COREシリーズの消費税増税対応

■ ③伝票入力時に初期表示される税処理コードの変更

【バッチマスタ登録(対象マスタ:勘定科目マスタ)】

バッチマスタから勘定科目に紐づいている消費税コードを一括で変更します。

作成したバッチファイルを指定

対象マスタ
勘定科目マスタ

入力ファイル
検索 c:\temp\kamoku.csv

処理結果
0件

ファイルの作成方法については
SuperStream-CORE
[システム設定ガイド]
C.バッチデータによるマスタ情報の設定
C.2 勘定科目マスタ をご参照ください。

科目コード

新しい消費税コード

「内部コード」
「税入力区分」
も合わせて指定が必要

科目コード	新しい消費税コード	内部コード
40200	121	121
40200	1	1

【参考資料】SuperStream-COREシリーズの消費税増税対応

■ ④消費税率改正後の運用

【仕訳入力】

消費税率が改正日以降は、次の通りに【仕訳入力】を行ってください。

税処理の初期値は「伝票日付」「科目」より…
【勘定科目税区分登録】で設定されている消費税コード
が初期表示される

伝票日付より、
税処理コード-8% が初期表示
されるが、プルダウンにて
5%への変更も可能

■ ⑤帳票確認（科目別消費税集計表 他）

【科目別消費税集計表】

科目別消費税集計表（仮受） 2012/02/27 15:27:38

2014年03月～2014年03月

ko007消費税率変更 部門：00000 全社 決算：四半期/年次 1頁 (単位：円)

税コード	科目コード	科目名	借方発生額	貸方発生額	借方税額	貸方税額	税 額
111	40200	商品売上高	85238	85238	4762	4762	0
		税処理コード計	85238	85238	4762	4762	0

消費税率5%
のコード

消費税率8%
のコード

消費税率5%のコード
との混在も可能

科目別消費税集計表（仮受） 2012/02/28 14:45:51

2014年04月～2014年04月

ko007消費税率変更 部門：10000 東京本社 決算：なし 1頁 (単位：円)

税コード	科目コード	科目名	借方発生額	貸方発生額	借方税額	貸方税額	税 額
121	40200	商品売上高	92593	92593	7407	7407	0
		税処理コード計	92593	92593	7407	7407	0
111	40200	商品売上高	190478	190478	9524	9524	0
		税処理コード計	190478	190478	9524	9524	0

■ その他

【SuperStream-CORE】

「仕訳パターン」「定例仕訳」機能をご利用の場合は、伝票単位で税処理コードを変更してください。

【SuperStream-AP+】

- ・各入力画面での[税処理コード]の指定については、SuperStream-COREで設定した新しい税処理コードが使用可能です。
- ・振込手数料が「相手先負担」の伝票がある場合、決済仕訳の[仕訳インターフェース処理]時に科目マスタ(CMKMKMST)を参照し、科目に紐づく税処理コードを取得して自動セットしています。
([勘定科目税区分登録]で指定されている税処理コードです。)
そのため、旧税率での決済仕訳をすべてSuperStream-COREにインターフェースを行った後に[勘定科目税区分登録]等での修正を行ってください。
また、修正を行うまでは、新税率での決済仕訳をインターフェースしないようご注意ください。
- ・「パターン」伝票をご利用の場合には、伝票単位で税処理コードを変更してください。

【SuperStream-AR+】

- ・各入力画面での[税処理コード]の指定については、*SuperStream-CORE*で設定した新しい税処理コードが使用可能です。
- ・「パターン」伝票をご利用の場合には、伝票単位で税処理コードを変更してください。

【SuperStream-FA+】

- ・[資産記帳]で資産を登録する際に、新しい税処理コードを指定することができます。そのため、新税率での資産を登録する前に、*SuperStream-CORE*で新しい税処理コードを登録しておいてください。
- ・[資産の処分][資本的支出資産の処分]を登録する際に、税処理コードを指定することができます。そのため、新税率での資産を登録する前に、*SuperStream-CORE*で新しい税処理コードをご用意してください。
- ・リース資産管理の[消費税率マスタ設定]画面にて新消費税率を登録してください。
- ・リース資産管理（所有権移転外ファイナンスリース）
支払スケジュールについて確認いただき、必要に応じて新税率に変更してください。

SuperStream-CORE

【参考資料】SuperStream-COREシリーズの消費税増税対応

SuperStream-CORE

【SuperStream-PN+】

- 手形の取り扱い時に消費税は発生しないため、設定は不要です。

【SuperStream-field】

- 各入力画面での [税処理コード] の指定については、SuperStream-COREで設定した新しい税処理コードの使用が可能です。
- 「定型」伝票をご利用の場合には、伝票単位で税処理コードを変更してください。